

## 6. 施設・住まい

### (1) 介護サービスの利用と住まいについて

#### ① 介護サービスの利用と住まい

介護サービスの利用と住まいについては、各調査対象とも在宅介護サービスを利用しながら自宅での生活継続を望む割合が最も高い。

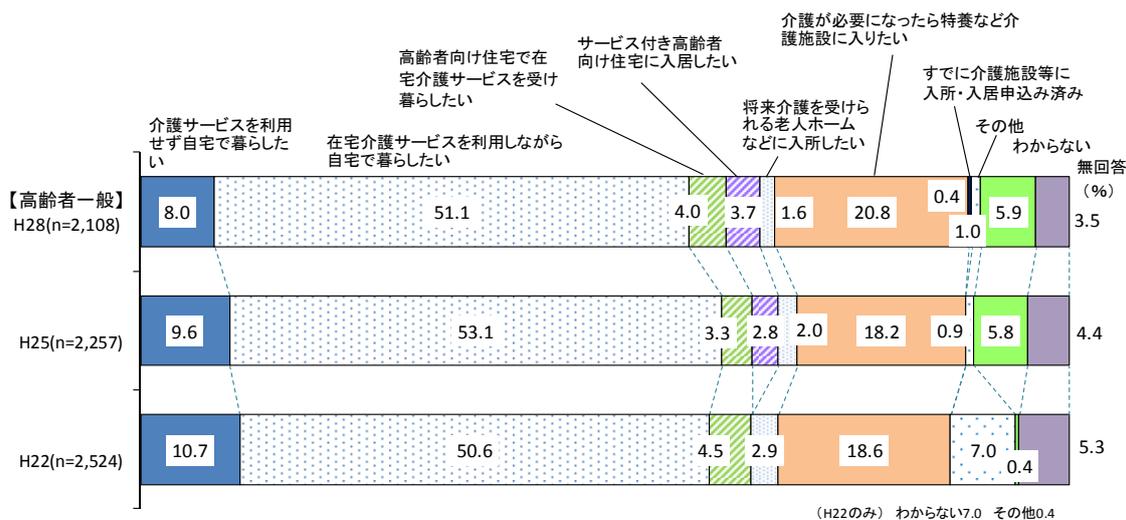
高齢者一般では「介護が必要になったら、介護サービスを利用しながら、できるだけ自宅で暮らしたい」が 51.1%と半数であるほか、「介護が必要になったら特養など介護施設に入りたい」が 20.8%となっている。

要支援では、「在宅介護サービスを利用しながら自宅で暮らしたい」が 47.3%で、前回割合 (36.6%) を 11 ポイント近く上回っている。

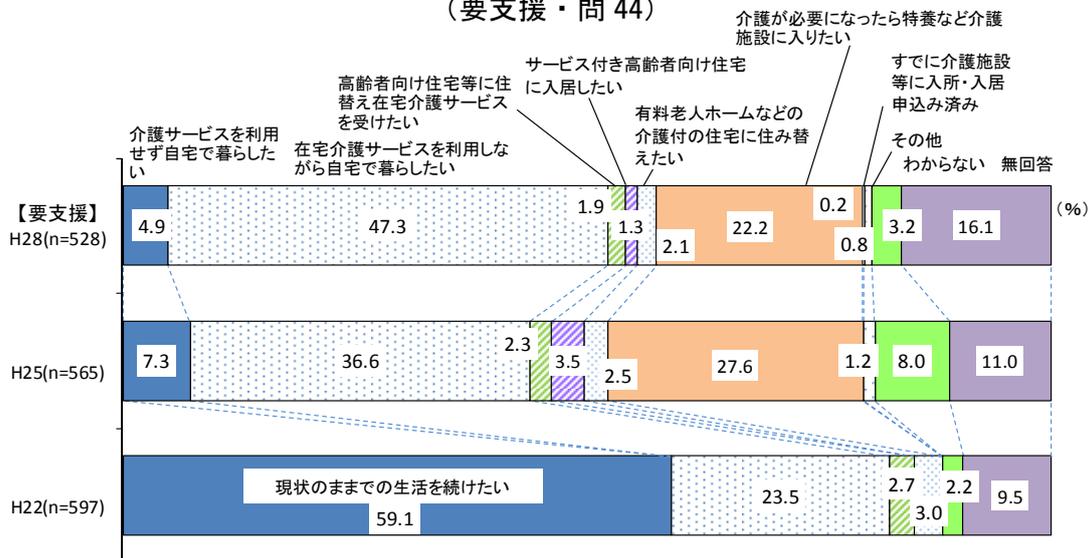
要介護では、「在宅介護サービスを利用しながら自宅で暮らしたい」が 71.6%となっており、前回に比べて割合に大きな変化はみられない。

未利用では、「在宅介護サービスを利用しながら自宅で暮らしたい」が 38.1%で最も高いが、前回割合 (44.3%) に比べて 6 ポイント減少している。

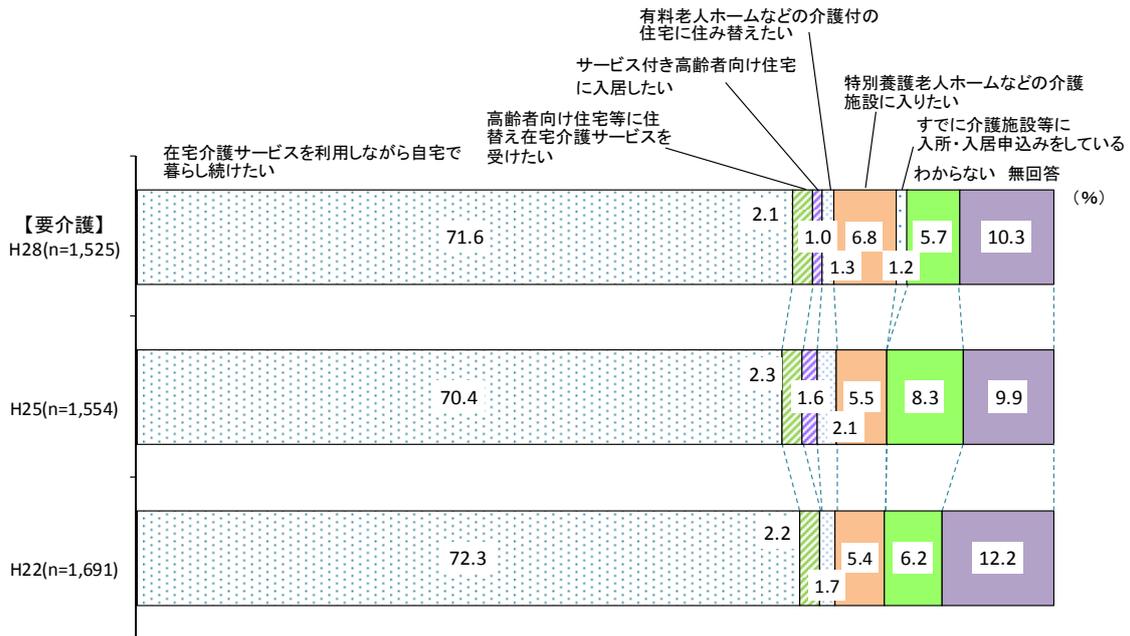
図表 6 (1) ①-1 介護サービスの利用と住まいについて (時系列)  
(高齢者一般・問 38)



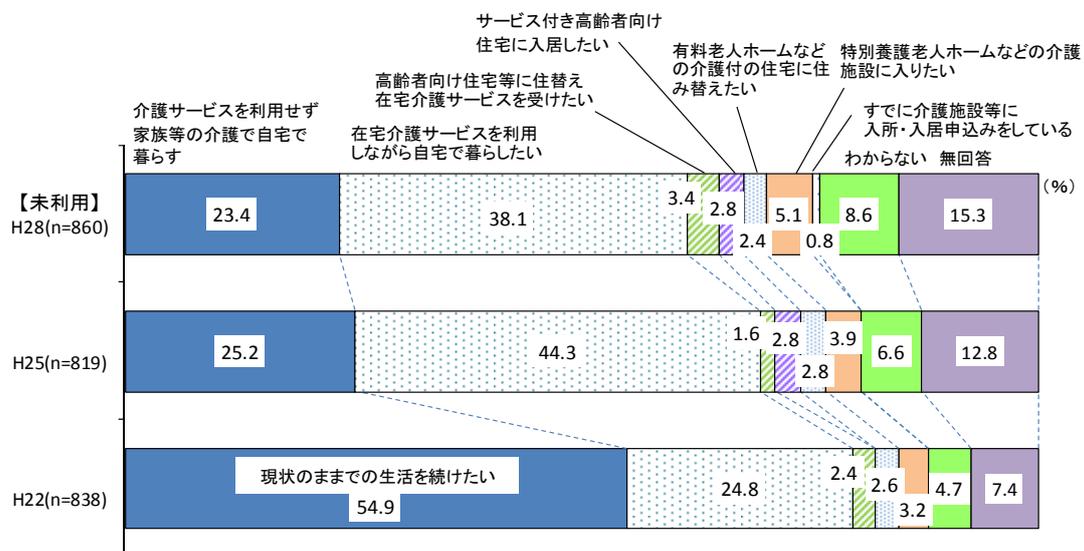
(要支援・問 44)



(要介護・問 43)



(未利用・問 41)

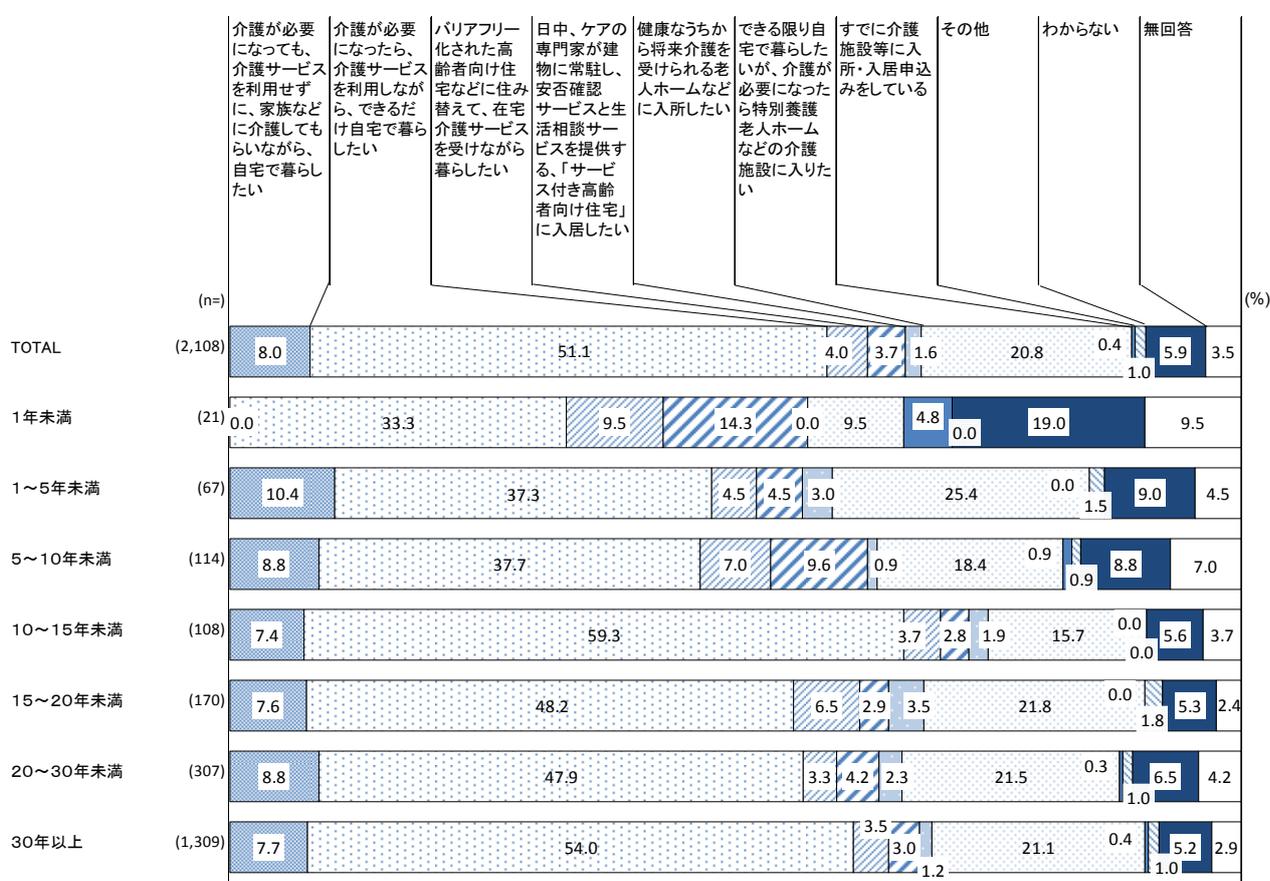


介護サービスの利用と住まいについて、高齢者一般の居住年数別では、「介護が必要になったら、介護サービスを利用しながら、できるだけ自宅で暮らしたい」が51.1%となっており、居住年数が比較的長い10～15年未満、30年以上の居住者では59.3%、54.0%と半数を超えている。

また、居住年数が短い高齢者では、「日中、ケアの専門家が建物に常駐し、安否確認サービスと生活相談サービスを提供する、『サービス付き高齢者向け住宅』に入居したい」をあげる割合が高く、5年～10年未満では、9.6%となっている。

図表6 (1)①-2 介護サービスの利用と住まいについて（高齢者一般・問38）

【居住年数別】



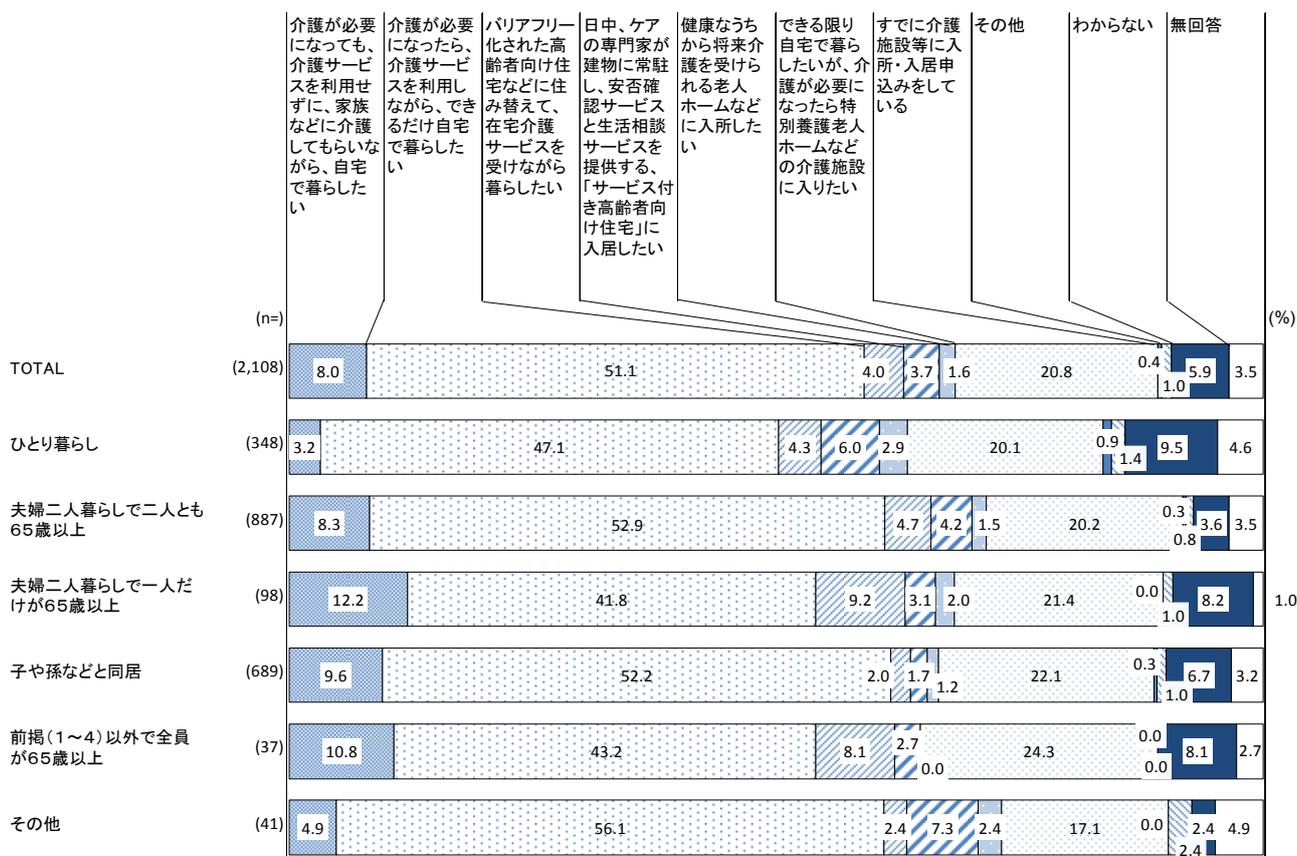
(無回答 n=12 は非表示)

介護サービスの利用と住まいについて、高齢者一般の世帯状況別では、いずれも「介護が必要になったら、介護サービスを利用しながら、できるだけ自宅で暮らしたい」が4～5割で最も多い。

このうち、夫婦二人暮らしで二人とも65歳以上、子や孫など同居の高齢者では52.9%、52.2%とともに5割を超えている。次いで「できる限り自宅で暮らしたいが、介護が必要になったら特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい」は、いずれの世帯状況でも2割前後となっている。

図表6(1)①-3 介護サービスの利用と住まいについて（高齢者一般・問38）

【世帯状況別】



(無回答 n=8 は非表示)



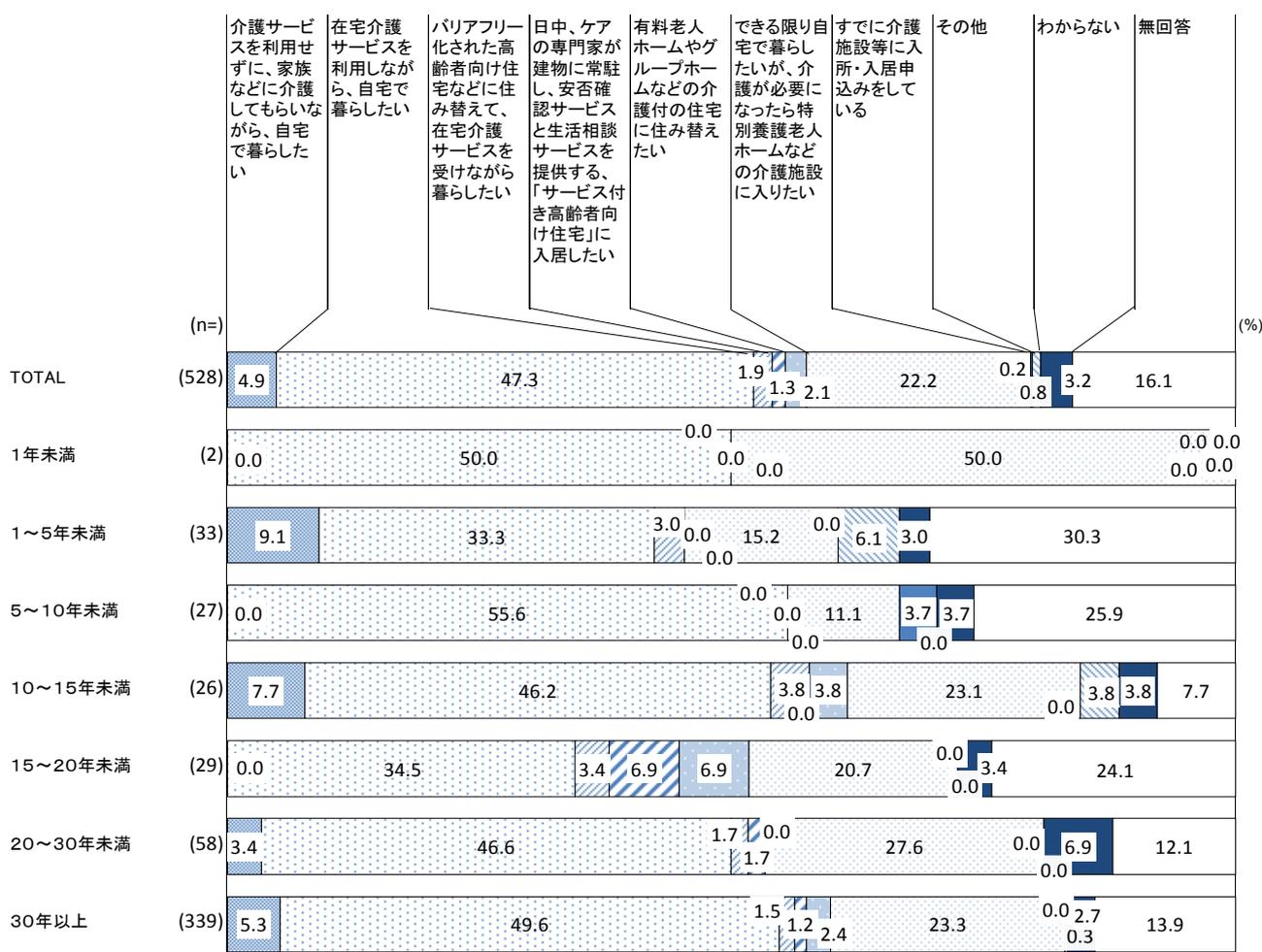
介護サービスの利用と住まいについて、要支援の居住年数別では、居住年数が30年以上のサンプル数が突出して大きく、回答全体の傾向を左右している。

居住年数が30年以上の要支援者では、「介護が必要になったら、在宅介護サービスを利用しながら、自宅で暮らしたい」が約半数（49.6%）となっている。また、「できる限り自宅で暮らしたいが、介護が必要になったら特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい」が23.3%となっている。

なお、20～30年未満の要支援者は、30年以上の要支援者とはほぼ同様の回答傾向となっている。

図表6(1)①-5 介護サービスの利用と住まいについて（要支援・問44）

【居住年数別】



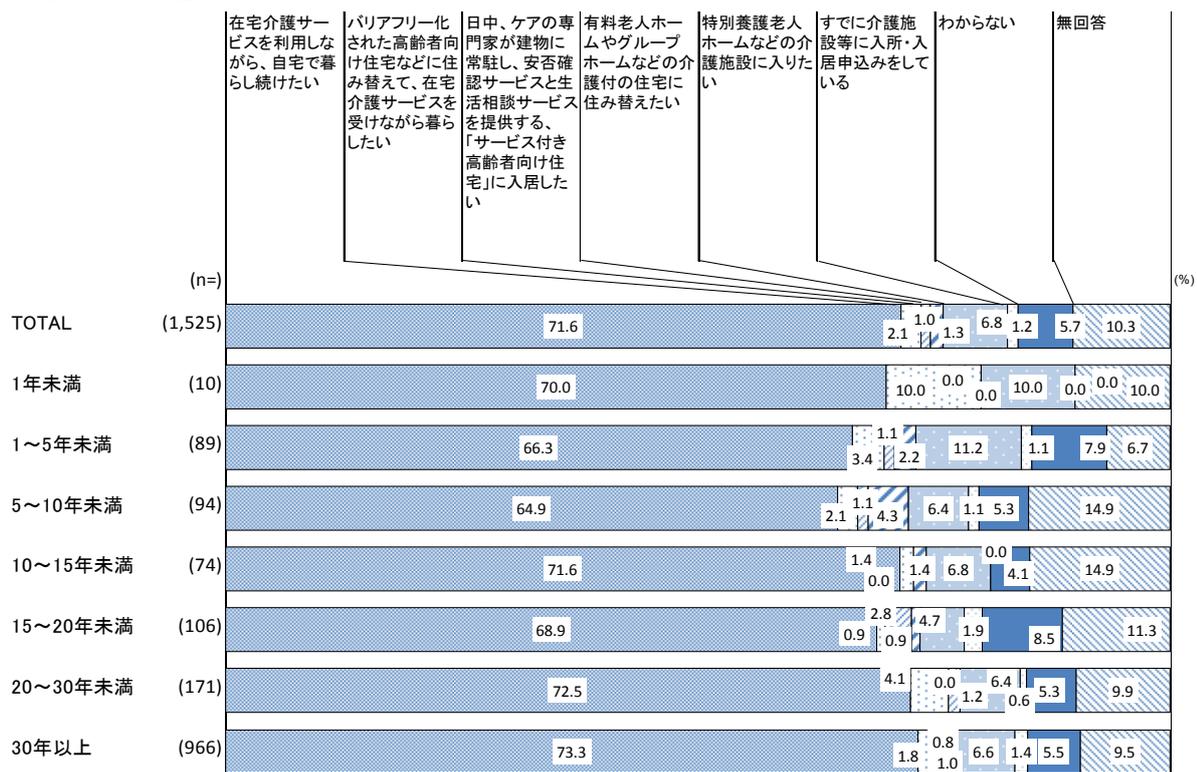
(無回答 n=14 は非表示)

要介護者における今後の在宅サービス利用の希望状況について、居住年数にかかわらず「在宅介護サービスを利用しながら、自宅で暮らし続けたい」をあげる割合が高く、30年以上では73.3%となっている。

要介護度別では、要介護3・4・5にかけては「在宅介護サービスを利用しながら、自宅で暮らし続けたい」をあげる割合は要介護度が高いほど高く、要介護3で65.5%、要介護5では87.4%と8割を超えている。

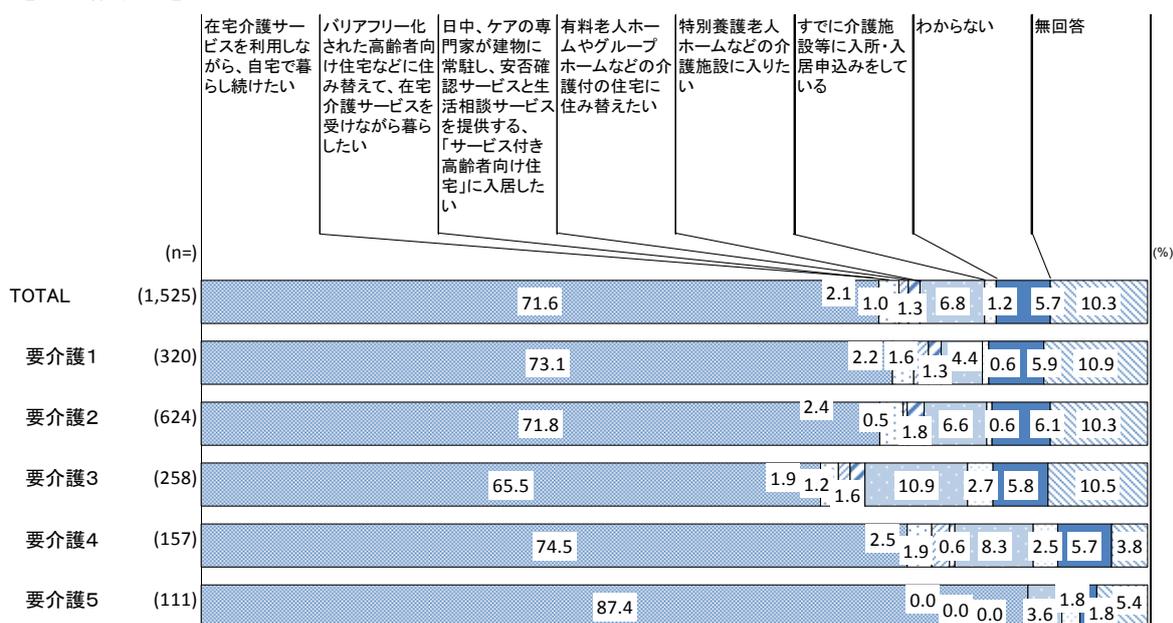
図表6(1)①-6 介護サービスの利用と住まいについて (要介護・問43)

【居住年数別】



(無回答 n=15 は非表示)

【要介護度別】



(無回答 n=55 は非表示)

## ② 在宅生活維持のために必要なサービス

介護サービス以外の在宅生活維持のために必要なサービスについて、要支援の居住年数別では、30年以上のサンプル数が突出して大きいため、回答全体の傾向を左右している。

その30年以上については、「自宅に医師が訪問して診療してくれること」(31.5%)、「夜間にも自宅でホームヘルプや看護が受けられること」(31.0%)、「自分の希望に応じて外出支援のサービスを受けられること」(30.4%)の3項目が3割となっている。

図表6(1)②-1 現行サービス以外に必要なもの(複数回答、要支援・問44-1)

【居住年数別】

	TOTAL (n=250)	居住年数別(無回答n=6非表示)						
		1年未満 (n=1)	1~5年未満 (n=11)	5~10年未満 (n=15)	10~15年未満 (n=12)	15~20年未満 (n=10)	20~30年未満 (n=27)	30年以上 (n=168)
夜間にも自宅でホームヘルプや看護が受けられること	30.0	0.0	27.3	13.3	50.0	30.0	25.9	31.0
自宅に医師が訪問して診療してくれること	31.6	0.0	27.3	40.0	58.3	10.0	29.6	31.5
ふだん通っている介護事業所などで、希望すれば泊まれること	7.2	0.0	9.1	0.0	8.3	0.0	7.4	8.3
入浴のみ、食事のみ、リハビリのみなど、短時間の通所サービスが受けられること	24.4	0.0	27.3	13.3	33.3	20.0	33.3	23.8
自分の希望に応じて外出支援のサービスを受けられること	28.4	100.0	18.2	33.3	25.0	20.0	22.2	30.4
介護者の入院など緊急時に入所可能なショートステイのベッドが利用できること	22.4	0.0	27.3	20.0	50.0	20.0	25.9	20.8
その他	4.8	0.0	9.1	6.7	0.0	10.0	14.8	3.0
必要なサービスはない	16.8	0.0	27.3	13.3	8.3	30.0	14.8	17.3
無回答	6.4	0.0	9.1	13.3	8.3	0.0	3.7	6.0

要介護の居住年数別では、5年以上居住する要介護者では「介護者の入院など緊急時に入所可能なショートステイのベッドが利用できること」が4～5割となっている。

また、1年未満を除き、「自宅に医師が訪問して診療してくれること」の利用意向が3～4割となっている。

10年以上居住する要介護者では「夜間にも自宅でホームヘルプや看護が受けられること」が3割前後、10年～15年未満の要介護者では49.1%が「自分の希望に応じて外出支援のサービスを受けられること」をあげている。

要介護度別では、要介護3・4・5では「介護者の入院など緊急時に入所可能なショートステイのベッドが利用できること」が5～6割と多く、要介護5では63.9%となっている。

また、要介護3では「自宅に医師が訪問して診療してくれること」(39.6%)、「入浴のみ、食事のみ、リハビリのみなど、短時間の通所サービスが受けられること」(38.5%)、「ふだん通っている介護事業所などで、希望すれば泊まれること」(33.1%)、「自分の希望に応じて外出支援のサービスを受けられること」(28.4%)が他の介護度よりも多くなっている。

図表6(1)②-2 現行サービス以外に必要なもの(複数回答、要介護・問43-1)

【居住年数別】

	TOTAL (n=1092)	居住年数別(無回答n=7非表示)						
		1年未満 (n=7)	1～5年未満 (n=59)	5～10年未満 (n=61)	10～15年未満 (n=53)	15～20年未満 (n=73)	20～30年未満 (n=124)	30年以上 (n=708)
夜間にも自宅でホームヘルプや看護が受けられること	27.7	14.3	27.1	21.3	35.8	39.7	31.5	26.0
自宅に医師が訪問して診療してくれること	37.0	0.0	42.4	32.8	39.6	39.7	31.5	37.9
ふだん通っている介護事業所などで、希望すれば泊まれること	24.8	28.6	28.8	21.3	26.4	24.7	24.2	24.9
入浴のみ、食事のみ、リハビリのみなど、短時間の通所サービスが受けられること	29.1	14.3	22.0	21.3	28.3	35.6	28.2	30.2
自分の希望に応じて外出支援のサービスを受けられること	26.7	14.3	22.0	37.7	49.1	26.0	23.4	25.6
介護者の入院など緊急時に入所可能なショートステイのベッドが利用できること	45.1	14.3	37.3	50.8	50.9	47.9	49.2	44.1
その他	2.8	0.0	3.4	1.6	1.9	8.2	4.0	2.3
必要なサービスはない	13.0	14.3	11.9	9.8	11.3	13.7	11.3	13.8
無回答	6.9	0.0	6.8	9.8	1.9	2.7	7.3	7.3

【要介護度別】

	TOTAL (n=1092)	要介護度別(無回答n=27非表示)				
		要介護1 (n=234)	要介護2 (n=448)	要介護3 (n=169)	要介護4 (n=117)	要介護5 (n=97)
夜間にも自宅でホームヘルプや看護が受けられること	27.7	25.6	27.0	31.4	28.2	30.9
自宅に医師が訪問して診療してくれること	37.0	36.3	37.7	39.6	37.6	33.0
ふだん通っている介護事業所などで、希望すれば泊まれること	24.8	22.6	21.4	33.1	30.8	25.8
入浴のみ、食事のみ、リハビリのみなど、短時間の通所サービスが受けられること	29.1	30.8	28.3	38.5	25.6	17.5
自分の希望に応じて外出支援のサービスを受けられること	26.7	26.5	28.1	28.4	26.5	20.6
介護者の入院など緊急時に入所可能なショートステイのベッドが利用できること	45.1	43.6	39.1	50.3	51.3	63.9
その他	2.8	4.3	2.9	3.0	0.9	2.1
必要なサービスはない	13.0	13.7	13.8	9.5	14.5	10.3
無回答	6.9	6.8	6.5	7.7	2.6	8.2

### ③ 施設利用について

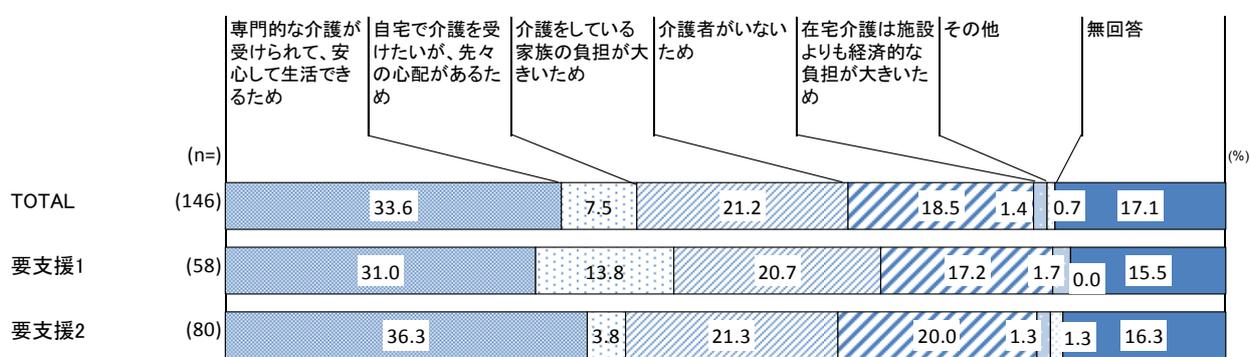
施設等での介護を希望する理由について、要支援では、要支援2において、「専門的な介護が受けられて、安心して生活できるため」が36.3%、「介護をしている家族の負担が大きいため」が21.3%となっており、それぞれ要支援1よりも高くなっている。

要介護では、要介護2で「介護をしている家族の負担が大きいため」が35.1%、「介護者がいないため」が14.9%となっている。

要介護3では、「介護をしている家族の負担が大きいため」が38.3%、「専門的な介護が受けられて、安心して生活できるため」が27.7%となっている。なお、要介護4・5ではサンプル数が少数だが、要介護4より要介護5のほうが「介護をしている家族の負担が大きいため」を回答した割合が高い。

図表6(1)③-1 施設介護を希望する主な理由（要支援・問44-2）

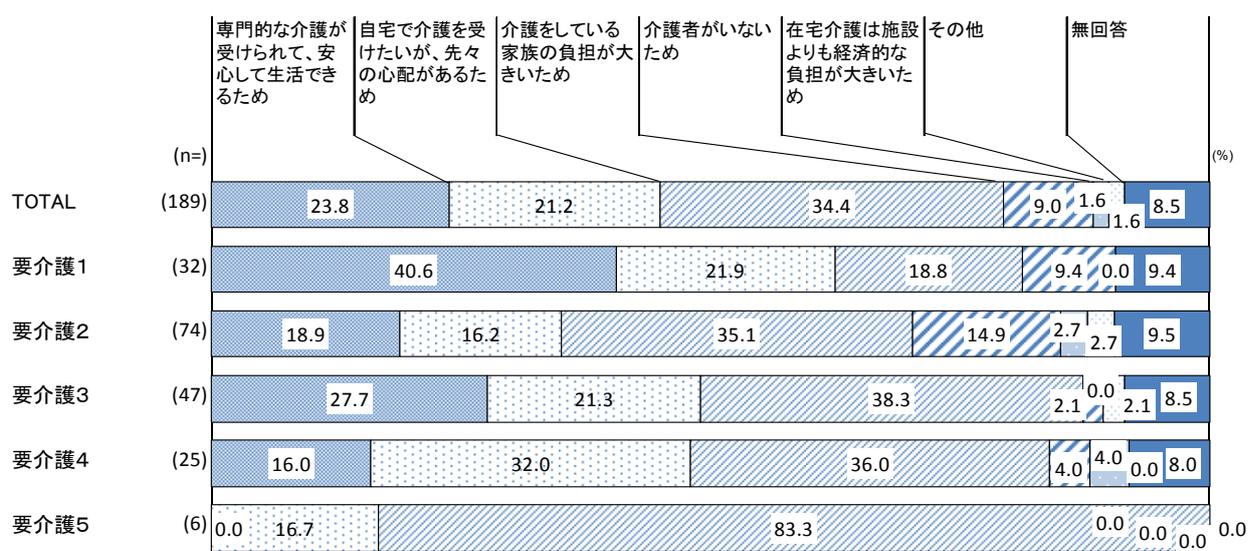
【要介護度別】



(無回答等 n=8 は非表示)

図表6(1)③-2 施設介護を希望する主な理由（要介護・問43-2）

【要介護度別】



(無回答 n=5 は非表示)

## (2) 特養申込者の状況

## ① 申し込み理由

特養入所申し込みの理由については、「専門的な介護が受けられて、安心して生活ができるため」(41.9%)が最も多く、次いで「要介護度が重い、認知症、食事・排せつができないなど、介護の必要性が高くなったため」(35.4%)、「すぐには入所できないので、早めに申込みをしておく必要があるため」(34.0%)となっている。

「要介護度が重い、認知症、食事・排せつができないなど、介護の必要性が高くなったため」は、要介護度が重くなるにつれて割合が高くなっている。

図表6(2)① 特養入所申し込みの理由(複数回答、特養申込者・問27)

## 【要介護度別】

	TOTAL (n=1373)	要介護度別(無回答n=21非表示)				
		要介護1 (n=67)	要介護2 (n=151)	要介護3 (n=445)	要介護4 (n=408)	要介護5 (n=281)
専門的な介護が受けられて、安心して生活ができるため	41.9	29.9	39.1	44.5	42.2	42.7
要介護度が重い、認知症、食事・排せつができないなど、介護の必要性が高くなったため	35.4	3.0	7.3	29.7	43.1	58.7
すぐには入所できないので、早めに申込みをしておく必要があるため	34.0	41.8	37.1	35.3	34.1	29.2
介護者の精神的ストレスが大きいため	31.6	34.3	33.8	34.8	31.6	26.0
介護者が高齢や病気がちで健康状態が良くないため	24.0	19.4	25.2	24.9	22.1	26.7
介護者が就労しているため	20.0	25.4	16.6	21.3	20.6	18.9
今の在宅での生活を続けたいが、先々の心配があるため	19.8	25.4	22.5	17.3	19.9	20.6
他の施設より安いため	18.5	13.4	19.9	22.7	17.2	15.3
他の施設に入院・入所中だが、退院・退所の期限があるため	16.2	22.4	14.6	13.5	16.9	19.6
在宅での生活を続けるには、住まいの環境が良くないため	16.0	11.9	17.9	18.0	17.4	11.4
同居者の中に他にも要介護者または障害者・病気にかかっている人・乳幼児等があり、介護に負担がかかるため	9.2	6.0	7.9	10.3	9.3	8.2
経済的に在宅では支えきれないため	6.0	11.9	9.9	5.4	6.1	3.9
本人が入所を希望しているため	5.7	11.9	11.9	5.6	4.2	3.2
介護者がいないため	5.5	11.9	6.6	6.7	4.7	2.8
在宅では施設より金銭的な負担が大きいため	4.2	9.0	7.9	3.8	3.2	2.8
介護者が育児をしているため	1.4	1.5	1.3	1.6	1.2	1.4
その他	4.7	7.5	6.6	4.3	2.7	6.8
無回答	0.9	1.5	0.0	0.2	0.2	0.7

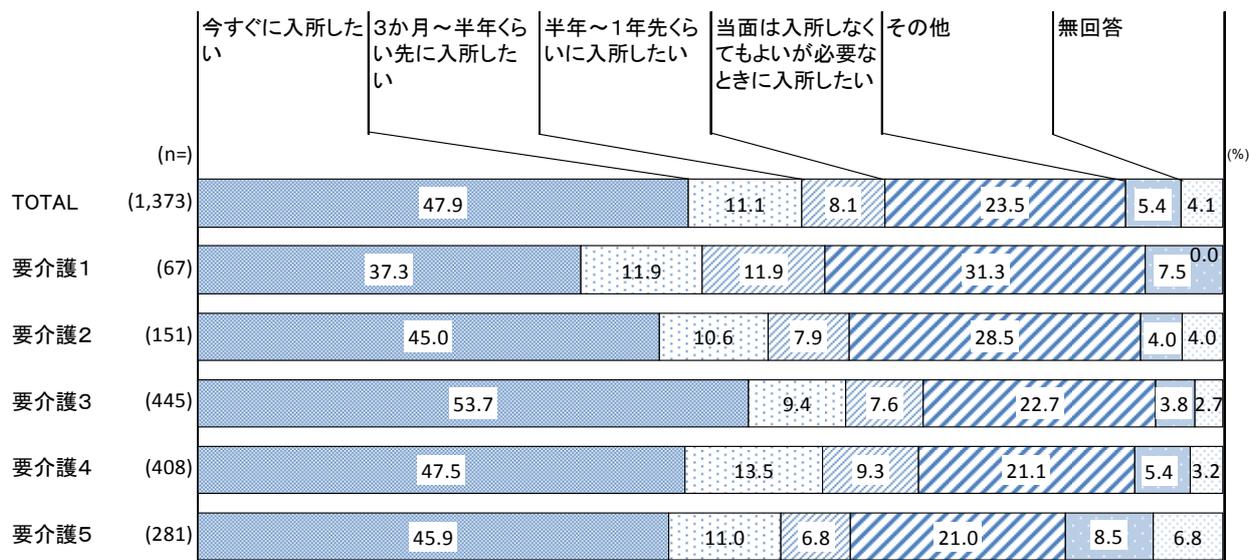
② 入所希望時期とその理由

特養への入所希望時期については、「今すぐに入所したい」(47.9%)が最も多く、「当面は入所しなくてもよいが必要なときに入所したい」(23.5%)、「3か月～半年くらい先に入所したい」(11.1%)となっている。

要介護度別では、要介護3で「今すぐに入所したい」が53.7%と他の介護度に比べて最も高い。一方、要介護1・2では「当面は入所しなくてもよいが必要なときに入所したい」が3割前後となっている。

図表 6 (2)②-1 入所希望時期 (特養申込者・問 29)

【要介護度別】

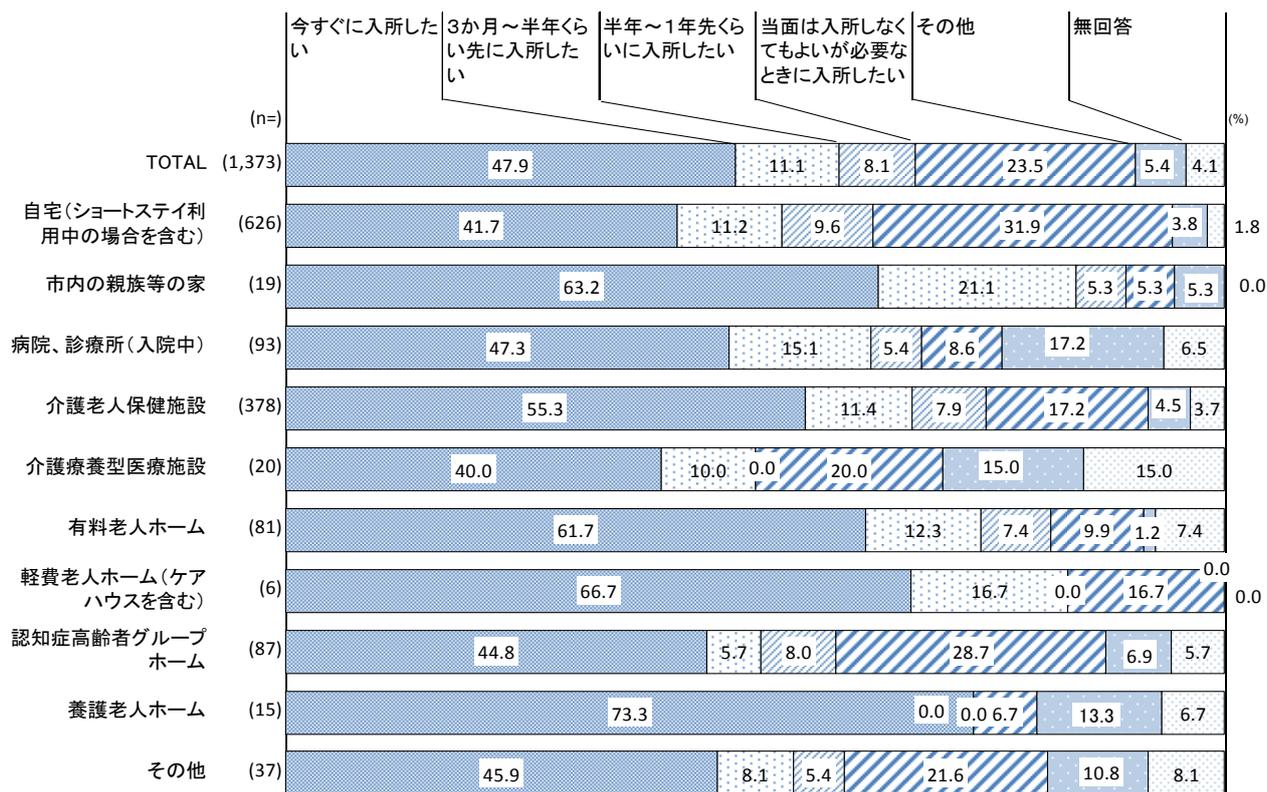


(無回答 n=21 は非表示)

特養への入所希望時期について、要介護者の現在の居所別にみると、介護老人保健施設入所者では、「今すぐに入所したい」が55.3%と半数を超えている。一方、自宅（ショートステイ利用中の場合を含む）では、「今すぐに入所したい」は41.7%、「当面は入所しなくてもよいが必要なときに入所したい」は31.9%となっている。

図表 6 (2) ②-2 入所希望時期（特養申込者・問 29）

【現在の居所別】

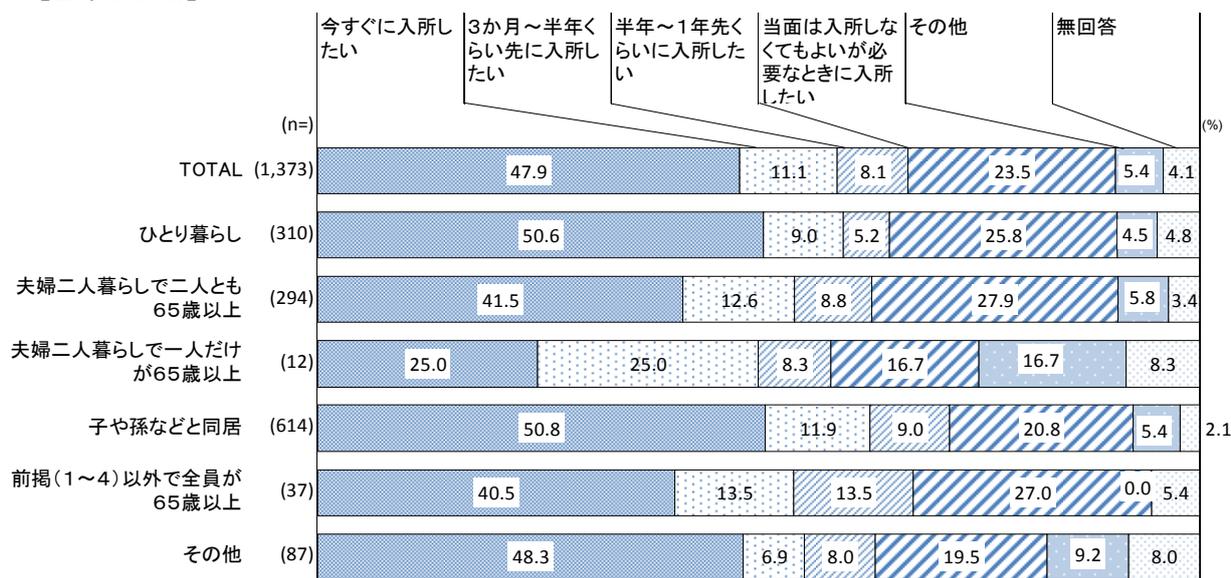


(無回答 n=11 は非表示)

特養への入所希望時期について、要介護者の世帯状況別にみると、ひとり暮らし、子や孫などと同居の5割（50.6%、50.8%）は「今すぐに入所したい」となっている。

図表 6 (2) ②-3 入所希望時期（特養申込者・問 29）

【世帯状況別】



(無回答 n=19 は非表示)

入所希望時期の理由については、「介護者・家族への負担が重くなり、限界を超えているから（限界を超えたら）」(39.5%) が最も多く、次いで「現在入院・入所している施設等に退院・退院退所・入所を求められているから（退院・退所の時期に合わせて入所したいから）」(20.9%)、「現在利用している施設もしくは在宅サービスの費用が高くて経済的に続かないから」(18.6%) となっている。

「先々が心配なため、身の回りのことができるうちに入所したいから」は、要介護度が軽くなるにつれ割合が高くなっている。

図表 6 (2) ②-4 入所希望時期の理由（複数回答、特養申込者・問 29-1）

【要介護度別】

理由	TOTAL (n=1373)	要介護度別(無回答n=21非表示)				
		要介護1 (n=67)	要介護2 (n=151)	要介護3 (n=445)	要介護4 (n=408)	要介護5 (n=281)
介護者・家族への負担が重くなり、限界を超えているから(限界を超えたら)	39.5	26.9	32.5	43.6	42.2	38.8
現在入院・入所している施設等に退院・退所退院・入所を求められているから(退院・退所の時期に合わせて入所したいから)	20.9	20.9	11.9	16.9	23.8	29.2
現在利用している施設もしくは在宅サービスの費用が高くて経済的に続かないから	18.6	16.4	17.9	23.1	17.6	14.2
先々が心配なため、身の回りのことができるうちに入所したいから	16.5	34.3	27.8	19.6	13.2	6.0
介護者が病気になる(要介護になった、入院した)から(病気になるまで)	15.3	19.4	19.2	15.5	12.7	16.0
もう少し自宅にいたいから(面倒を見てもらいたいから)	10.6	14.9	10.6	8.8	11.8	11.0
介護者がいなくて、生活に不安があるから	9.3	11.9	13.2	9.4	8.6	6.8
現在の病院・施設にもう少しいたいから(治療等が終わるまで、状態が安定するまで等)	7.9	6.0	3.3	5.4	11.8	10.0
その他	8.2	10.4	7.9	7.6	7.8	10.0
無回答	8.4	7.5	9.9	7.9	6.1	8.9

入所希望時期の理由について、特養申込者の現在の居所別では、自宅（ショートステイ利用中の場合を含む）では、「介護者・家族への負担が重くなり、限界を超えているから（限界を超えたら）」が56.7%と半数を超えているほか、病院、診療所（入院中）及び介護老人保健施設では、「現在入院・入所している施設等に退院・退所退院・入所を求められているから（退院・退所の時期に合わせて入所したいから）」とする回答がそれぞれ62.4%、45.8%と高い割合となっている。

また、有料老人ホーム及び認知症高齢者グループホームの入居者では、「現在利用している施設もしくは在宅サービスの費用が高くて経済的に続かないから」とする回答がそれぞれ74.1%、46.0%となっている。

図表6(2)②-5 入所希望時期の理由（複数回答、特養申込者・問29-1）

【現在の居所別】

	TOTAL (n=1373)	現在の居所別（無回答n=11非表示）				
		自宅（ショートステイ利用中の場合を含む） (n=626)	市内の親族等の家 (n=19)	病院、診療所（入院中） (n=93)	介護老人保健施設 (n=378)	介護療養型医療施設 (n=20)
介護者・家族への負担が重くなり、限界を超えているから（限界を超えたら）	39.5	56.7	63.2	32.3	23.3	15.0
現在入院・入所している施設等に退院・退所退院・入所を求められているから（退院・退所の時期に合わせて入所したいから）	20.9	4.3	0.0	62.4	45.8	25.0
現在利用している施設もしくは在宅サービスの費用が高くて経済的に続かないから	18.6	6.1	5.3	21.5	20.6	20.0
先々が心配なため、身の回りのことができるうちに入所したいから	16.5	22.0	21.1	4.3	11.4	0.0
介護者が病気になった（要介護になった、入院した）から（病気になったら）	15.3	21.9	21.1	7.5	11.1	5.0
もう少し自宅にいたいから（面倒を見てもらいたいから）	10.6	21.7	21.1	0.0	0.5	0.0
介護者がいなくて、生活に不安があるから	9.3	9.4	10.5	11.8	9.8	5.0
現在の病院・施設にもう少しいたいから（治療等が終わるまで、状態が安定するまで等）	7.9	1.1	5.3	22.6	14.0	20.0
その他	8.2	7.0	10.5	4.3	9.0	15.0
無回答	8.4	8.3	0.0	7.5	8.2	15.0

	TOTAL (n=1373)	現在の居所別（無回答n=11非表示）				
		有料老人ホーム (n=81)	軽費老人ホーム（ケアハウスを含む） (n=6)	認知症高齢者グループホーム (n=87)	養護老人ホーム (n=15)	その他 (n=37)
介護者・家族への負担が重くなり、限界を超えているから（限界を超えたら）	39.5	23.5	50.0	14.9	40.0	35.1
現在入院・入所している施設等に退院・退所退院・入所を求められているから（退院・退所の時期に合わせて入所したいから）	20.9	1.2	33.3	13.8	20.0	13.5
現在利用している施設もしくは在宅サービスの費用が高くて経済的に続かないから	18.6	74.1	50.0	46.0	13.3	24.3
先々が心配なため、身の回りのことができるうちに入所したいから	16.5	11.1	33.3	11.5	20.0	32.4
介護者が病気になった（要介護になった、入院した）から（病気になったら）	15.3	8.6	0.0	1.1	20.0	16.2
もう少し自宅にいたいから（面倒を見てもらいたいから）	10.6	1.2	0.0	2.3	0.0	2.7
介護者がいなくて、生活に不安があるから	9.3	12.3	16.7	2.3	6.7	8.1
現在の病院・施設にもう少しいたいから（治療等が終わるまで、状態が安定するまで等）	7.9	7.4	0.0	18.4	0.0	2.7
その他	8.2	11.1	16.7	13.8	6.7	8.1
無回答	8.4	3.7	0.0	6.9	20.0	10.8

入所希望時期の理由について、特養申込者の世帯状況別では、夫婦二人暮らしで二人とも65歳以上や子や孫など同居で、「介護者・家族への負担が重くなり、限界を超えているから(限界を超えたら)」がそれぞれ44.2%、49.2%となっている。

図表6(2)②-6 入所希望時期の理由(複数回答、特養申込者・問29-1)

【世帯状況別】

	TOTAL (n=1373)	世帯状況別(無回答n=19非表示)					
		ひとり暮らし (n=310)	夫婦二人暮らし で二人とも 65歳以上 (n=294)	夫婦二人暮らし で一人だけ が65歳以上 (n=12)	子や孫などと 同居 (n=614)	前掲(1~4) 以外で全員が 65歳以上 (n=37)	その他 (n=87)
(96) 介護者・家族への負担が重くなり、限界を超えているから(限界を超えたら)	39.5	22.3	44.2	16.7	49.2	29.7	28.7
現在入院・入所している施設等に退院・退所退院・入所を求められているから(退院・退所の時期に合わせて入所したいから)	20.9	19.4	21.1	41.7	21.3	29.7	20.7
現在利用している施設もしくは在宅サービスの費用が高くて経済的に続かないから	18.6	22.3	15.6	8.3	16.3	18.9	34.5
先々が心配なため、身の回りのことができるうちに入所したいから	16.5	19.4	16.7	16.7	15.6	8.1	17.2
介護者が病気になった(要介護になった、入院した)から(病気になったら)	15.3	5.2	23.5	0.0	15.8	24.3	17.2
もう少し自宅にいたいから(面倒を見てもらいたいから)	10.6	11.6	13.3	8.3	10.1	10.8	3.4
介護者がいなくて、生活に不安があるから	9.3	20.6	6.8	0.0	6.0	2.7	5.7
現在の病院・施設にもう少しいたいから(治療等が終わるまで、状態が安定するまで等)	7.9	9.4	7.1	25.0	7.0	5.4	12.6
その他	8.2	14.2	6.5	0.0	6.8	5.4	4.6
無回答	8.4	8.7	11.2	16.7	5.4	8.1	10.3

③ 他施設の利用意向

特養に代わる他の施設サービスの利用意向について、特養申込者では、「特別養護老人ホーム以外は利用したくない」(65.6%)が最も多く、次いで「介護老人保健施設」(20.3%)となっている。

要介護度別にみると、要介護5では「特別養護老人ホーム以外は利用したくない」が69.8%と特に高い割合となっている。

図表6(2)③-1 特養に代わるサービス利用意向(複数回答、特養申込者・問40)

【要介護度別】

	TOTAL (n=1373)	要介護度別(無回答等n=21非表示)				
		要介護1 (n=67)	要介護2 (n=151)	要介護3 (n=445)	要介護4 (n=408)	要介護5 (n=281)
特別養護老人ホーム以外は利用したくない	65.6	50.7	66.2	67.9	63.5	69.8
介護老人保健施設	20.3	29.9	17.2	19.3	22.1	18.9
介護療養型医療施設	5.2	4.5	1.3	3.8	6.6	8.2
特定施設	1.4	3.0	1.3	1.3	1.5	1.1
住宅型有料老人ホーム	1.6	4.5	1.3	0.9	2.5	1.1
認知症高齢者グループホーム	5.8	6.0	6.6	9.0	3.7	3.2
サービス付き高齢者向け住宅	0.9	3.0	1.3	0.2	1.2	0.4
小規模多機能型居宅介護	4.3	4.5	6.6	3.4	4.9	2.8
看護小規模多機能型居宅介護	2.6	6.0	3.3	2.7	2.5	1.1
無回答	9.2	16.4	7.9	7.4	9.1	8.9

特養に代わる他の施設サービスの利用意向について、現在の居所別では自宅（ショートステイ利用中の場合を含む）の要介護者では「特別養護老人ホーム以外は利用したくない」は73.0%となっている。

同様に、有料老人ホーム、認知症高齢者グループホーム、病院、診療所（入院中）の要介護者では、「特別養護老人ホーム以外は利用したくない」はそれぞれ67.9%、65.5%、60.2%といずれも6割を超えている。

図表6(2)③-2 特養に代わるサービス利用意向（複数回答、特養申込者・問40）

【現在の居所別】

	TOTAL (n=1373)	現在の居所別(無回答n=11非表示)				
		自宅(ショートステイ利用中の場合を含む) (n=626)	市内の親族等の家 (n=19)	病院、診療所(入院中) (n=93)	介護老人保健施設 (n=378)	介護療養型医療施設 (n=20)
特別養護老人ホーム以外は利用したくない	65.6	73.0	78.9	60.2	55.8	45.0
介護老人保健施設	20.3	13.4	10.5	14.0	38.9	10.0
介護療養型医療施設	5.2	2.4	5.3	20.4	4.2	35.0
特定施設	1.4	1.3	0.0	0.0	0.8	0.0
住宅型有料老人ホーム	1.6	1.1	5.3	0.0	0.3	0.0
認知症高齢者グループホーム	5.8	6.2	10.5	3.2	2.4	0.0
サービス付き高齢者向け住宅	0.9	1.0	0.0	0.0	0.8	5.0
小規模多機能型居宅介護	4.3	7.3	15.8	1.1	0.8	0.0
看護小規模多機能型居宅介護	2.6	4.3	0.0	0.0	0.8	0.0
無回答	9.2	6.9	5.3	10.8	10.8	20.0

	TOTAL (n=1373)	現在の居所別(無回答n=11非表示)				
		有料老人ホーム (n=81)	軽費老人ホーム(ケアハウスを含む) (n=6)	認知症高齢者グループホーム (n=87)	養護老人ホーム (n=15)	その他 (n=37)
特別養護老人ホーム以外は利用したくない	65.6	67.9	33.3	65.5	53.3	70.3
介護老人保健施設	20.3	22.2	16.7	6.9	13.3	8.1
介護療養型医療施設	5.2	11.1	33.3	2.3	0.0	2.7
特定施設	1.4	9.9	0.0	0.0	0.0	0.0
住宅型有料老人ホーム	1.6	9.9	16.7	2.3	0.0	5.4
認知症高齢者グループホーム	5.8	6.2	0.0	23.0	0.0	2.7
サービス付き高齢者向け住宅	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
小規模多機能型居宅介護	4.3	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0
看護小規模多機能型居宅介護	2.6	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	9.2	54.5	0.0	0.0	0.0	0.0

特養に代わる他の施設サービスの利用意向については、世帯状況別では、夫婦二人暮らしで二人とも65歳以上、子や孫など同居、ひとり暮らしの要介護者で、「特別養護老人ホーム以外は利用したくない」は6割台（68.7%、66.3%、64.8%）となっている。

図表6(2)③-3 特養に代わるサービス利用意向（複数回答、特養申込者・問40）

【世帯状況別】

	TOTAL (n=1373)	世帯状況別（無回答n=19非表示）					
		ひとり暮らし (n=310)	夫婦二人暮らしで二人とも65歳以上 (n=294)	夫婦二人暮らしで一人だけが65歳以上 (n=12)	子や孫など同居 (n=614)	前掲(1~4)以外で全員が65歳以上 (n=37)	その他 (n=87)
(%)	(n=1373)	(n=310)	(n=294)	(n=12)	(n=614)	(n=37)	(n=87)
特別養護老人ホーム以外は利用したくない	65.6	64.8	68.7	41.7	66.3	70.3	58.6
介護老人保健施設	20.3	17.7	16.7	16.7	23.0	13.5	27.6
介護療養型医療施設	5.2	5.2	6.1	8.3	5.0	5.4	2.3
特定施設	1.4	1.9	1.0	0.0	1.5	0.0	1.1
住宅型有料老人ホーム	1.6	1.9	1.4	0.0	1.6	0.0	2.3
認知症高齢者グループホーム	5.8	7.1	4.4	8.3	5.7	2.7	8.0
サービス付き高齢者向け住宅	0.9	1.9	1.4	0.0	0.2	0.0	1.1
小規模多機能型居宅介護	4.3	3.9	3.7	0.0	5.0	5.4	2.3
看護小規模多機能型居宅介護	2.6	2.6	2.7	8.3	2.8	0.0	1.1
無回答	9.2	9.4	10.9	16.7	6.8	16.2	9.2

## ④ 特養に代わるものとならない理由

特養に代わるものとならない理由については、「特別養護老人ホームよりも料金が低い(高そう)だから」(64.3%)が最も多く、次いで「特別養護老人ホームの方がサービスの質が高そうだから」(29.2%)、「終の棲家とならないから」(27.6%)の順となっている。

要介護度別では、すべての要介護度において「特別養護老人ホームよりも料金が低い(高そう)だから」とする割合が高く、6割前後となっている。

図表 6 (2)④-1 特養に代わるものとならない理由(複数回答、特養申込者・問 40-1)

【要介護度別】

	TOTAL (n=901) (%)	要介護度別(無回答n=10非表示)				
		要介護1 (n=34)	要介護2 (n=100)	要介護3 (n=302)	要介護4 (n=259)	要介護5 (n=196)
特別養護老人ホームよりも料金が低い(高そう)だから	64.3	58.8	67.0	68.2	62.5	60.2
特別養護老人ホームの方がサービスの質が高そうだから	29.2	23.5	27.0	27.2	31.3	33.2
終の棲家とならないから	27.6	32.4	24.0	31.8	24.3	28.1
どのようなサービスか実際に見ていないので実感がわからないから	16.4	8.8	14.0	15.6	18.1	17.9
身近にある特別養護老人ホーム以外の施設・住宅を知らないから	13.3	17.6	7.0	12.6	13.5	16.3
デイサービスなど、すでにサービスを受けている事業者だから	10.0	8.8	13.0	11.3	10.0	6.6
特に理由はない	2.0	0.0	3.0	1.7	2.3	1.5
その他	8.0	8.8	8.0	9.6	6.2	8.2
無回答	2.2	2.9	2.0	1.0	3.1	3.1

特養に代わるものとならない理由について、現在の居所別では、いずれでも「特別養護老人ホームよりも料金が安い(高そう)だから」とする割合が高く、自宅(ショートステイ利用中の場合を含む)の要介護者では68.7%、病院、診療所(入院中)の要介護者では62.5%、有料老人ホームの要介護者では74.5%となっている。

また、介護老人保健施設の要介護者では「終の棲家とならないから」が43.1%となっている。

図表6(2)④-2 特養に代わるものとならない理由(複数回答、特養申込者・問40-1)

【現在の居所別】

	TOTAL (n=901)	現在の居所別(無回答n=5非表示)				
		自宅(ショートステイ利用中の場合を含む) (n=457)	市内の親族等の家 (n=15)	病院、診療所(入院中) (n=56)	介護老人保健施設 (n=211)	介護療養型医療施設 (n=9)
特別養護老人ホームよりも料金が安い(高そう)だから	64.3	68.7	60.0	62.5	54.5	66.7
特別養護老人ホームの方がサービスの質が高そうだから	29.2	29.8	33.3	26.8	23.2	44.4
終の棲家とならないから	27.6	20.4	20.0	19.6	43.1	22.2
どのようなサービスか実際に見ていないので実感がわからないから	16.4	21.7	6.7	16.1	12.3	0.0
身近にある特別養護老人ホーム以外の施設・住宅を知らないから	13.3	17.1	13.3	5.4	10.0	0.0
デイサービスなど、すでにサービスを受けている事業者だから	10.0	15.1	20.0	10.7	1.9	0.0
特に理由はない	2.0	1.8	0.0	0.0	3.3	0.0
その他	8.0	6.3	13.3	7.1	11.4	22.2
無回答	2.2	0.9	0.0	5.4	4.3	0.0

	TOTAL (n=901)	(つづき)現在の居所別(無回答n=5非表示)				
		有料老人ホーム (n=55)	軽費老人ホーム(ケアハウスを含む) (n=2)	認知症高齢者グループホーム (n=57)	養護老人ホーム (n=8)	その他 (n=26)
特別養護老人ホームよりも料金が安い(高そう)だから	64.3	74.5	50.0	50.9	62.5	84.6
特別養護老人ホームの方がサービスの質が高そうだから	29.2	41.8	0.0	29.8	37.5	38.5
終の棲家とならないから	27.6	27.3	100.0	36.8	12.5	34.6
どのようなサービスか実際に見ていないので実感がわからないから	16.4	9.1	0.0	7.0	12.5	11.5
身近にある特別養護老人ホーム以外の施設・住宅を知らないから	13.3	7.3	0.0	7.0	12.5	15.4
デイサービスなど、すでにサービスを受けている事業者だから	10.0	3.6	0.0	1.8	12.5	7.7
特に理由はない	2.0	1.8	0.0	1.8	0.0	0.0
その他	8.0	10.9	0.0	8.8	0.0	0.0
無回答	2.2	1.8	0.0	5.3	0.0	0.0

特養に代わるものとならない理由について、世帯状況別では、ひとり暮らし、夫婦二人暮らしで二人とも65歳以上、子や孫など同居のいずれでも「特別養護老人ホームよりも料金が安い(高そう)だから」とする割合が6割台となっている。また、ひとり暮らしの要介護者では「終の棲家とならないから」が38.8%となっている。

図表6(2)④-3 特養に代わるものとならない理由(複数回答、特養申込者・問40-1)  
【世帯状況別】

	TOTAL (n=901)	世帯状況別(無回答n=9非表示)					
		ひとり暮らし (n=201)	夫婦二人暮らし で二人とも65 歳以上 (n=202)	夫婦二人暮らし で一人だけが 65歳以上 (n=5)	子や孫など 同居 (n=407)	前掲(1~4)以 外で全員が 65歳以上 (n=26)	その他 (n=51)
特別養護老人ホームよりも料金が安い(高そう)だから	64.3	65.7	67.3	80.0	63.9	26.9	72.5
特別養護老人ホームの方がサービスの質が高そうだから	29.2	29.9	29.7	0.0	29.2	26.9	27.5
終の棲家とならないから	27.6	38.8	25.7	20.0	24.6	23.1	23.5
どのようなサービスか実際に見ていないので実感がわからないから	16.4	16.4	19.8	40.0	16.0	11.5	7.8
身近にある特別養護老人ホーム以外の施設・住宅を知らないから	13.3	7.5	18.3	0.0	14.7	3.8	7.8
デイサービスなど、すでにサービスを受けている事業者だから	10.0	4.5	11.9	0.0	11.5	15.4	9.8
特に理由はない	2.0	1.0	1.5	0.0	2.7	7.7	0.0
その他	8.0	11.4	6.4	0.0	6.9	11.5	9.8
無回答	2.2	2.0	2.0	20.0	1.7	11.5	0.0

(3) 医療処置について

① 医療処置人数

介護施設等における医療処置の種類ごとの利用人数（平均値）について、入所（短期入所は除く）で特養及び老健で比較すると、「吸引」（5.3人）、「吸入」（2.1人）、「経管栄養」（6.3人）、「酸素療法」（2.3人）、「留置尿道カテーテル」（4.7人）、「点滴」（2.9人）、「褥瘡処置」（4.0人）においては特養が上回っている。また、「モニター測定」（25.4人）、「気管切開」（1.5人）、「ストーマ（人工肛門）」（2.2人）、「中心静脈点滴」（3.0人）、「がん末期の疼痛管理」（1.5人）、「腎透析（血液透析及び腹膜透析）」（31.3人）、「自己注射（インスリンを含む）」（3.2人）、「その他の投薬管理」（94.1人）においては、老健が上回っている。

なお、重複を排した医療処置者数は、特養で50.1人、老健で64.1人となっている。

図表6 (3)①-1 医療処置人数（数値記入、特養・問14、老健・問15）

		入所(短期入所は除く)				短期入所			
		特養		老健		特養		老健	
		(n=)	平均値(人)	(n=)	平均値(人)	(n=)	平均値(人)	(n=)	平均値(人)
吸引		(98)	5.3	(46)	3.7	(6)	1.5	(9)	1.0
内数	喀痰吸引	(80)	5.1	(38)	3.8	(5)	1.6	(7)	1.0
吸入		(28)	2.1	(11)	1.9	(4)	1.0	(-)	-
経管栄養		(113)	6.3	(51)	4.6	(10)	1.9	(7)	1.4
内数	鼻腔経管栄養	(9)	1.9	(2)	1.0	(-)	-	(-)	-
	瘻孔経管栄養	(100)	6.3	(45)	4.3	(7)	2.1	(5)	1.4
	中心静脈栄養	(2)	8.5	(-)	-	(-)	-	(-)	-
モニター測定(心拍、血圧、酸素、飽和度)		(11)	9.6	(10)	25.4	(2)	7.5	(3)	2.3
酸素療法		(60)	2.3	(16)	1.6	(9)	1.0	(2)	1.0
気管切開		(1)	1.0	(2)	1.5	(-)	-	(-)	-
人工呼吸器		(-)	-	(-)	-	(-)	-	(-)	-
ストーマ(人工肛門)		(69)	1.6	(33)	2.2	(10)	1.0	(1)	1.0
留置尿道カテーテル(膀胱カテーテルを含む)		(110)	4.7	(44)	3.9	(19)	1.2	(3)	1.3
点滴		(14)	2.9	(24)	2.1	(-)	-	(1)	1.0
内数	中心静脈点滴	(2)	1.5	(1)	3.0	(-)	-	(-)	-
	末梢静脈点滴	(13)	2.8	(22)	2.0	(-)	-	(1)	1.0
褥瘡処置		(78)	4.0	(30)	2.9	(13)	1.2	(5)	1.0
内数	褥瘡処置(Ⅲ度以上)	(46)	1.8	(15)	1.7	(1)	1.0	(3)	1.0
がん末期の疼痛管理		(8)	1.3	(4)	1.5	(1)	1.0	(-)	-
腎透析(血液透析及び腹膜透析)		(4)	10.0	(3)	31.3	(5)	1.6	(1)	5.0
自己注射(インスリンを含む)		(47)	2.5	(32)	3.2	(15)	1.6	(6)	1.0
その他の投薬管理(服薬介助を含む)		(77)	86.2	(41)	94.1	(63)	10.4	(24)	5.5
重複計上しない医療処置の人数		(105)	50.1	(45)	64.1	(71)	8.0	(25)	4.5

居住系事業所における医療処置人数については、重複を排した医療処置者数は、特定施設で 38.3 人、グループホームで 12.9 人、住宅型有料老人ホームで 19.3 人、サービス付き高齢者向け住宅で 11.2 人となっており、いずれの事業所でも「その他の投薬管理（服薬介助を含む）」、「モニター測定」が多く、「モニター測定」については、特定施設で 32.5 人、グループホームで 14.0 人、住宅型有料老人ホームで 20.0 人、サービス付き高齢者向け住宅で 4.0 人となっている。

図表 6 (3)①-2 医療処置人数（数値記入、居住系・問 12-2）

		特定施設		グループホーム		住宅型有料老人ホーム		サービス付き 高齢者向け住宅	
		入居		入居 (短期利用共同生活介 護は除く)		入居		入居	
		(n=)	平均値 (人)	(n=)	平均値 (人)	(n=)	平均値 (人)	(n=)	平均値 (人)
吸引		(58)	5.2	(4)	1.0	(8)	10.8	(2)	1.0
	内数								
	喀痰吸引	(53)	3.6	(3)	1.0	(7)	1.7	(2)	1.0
吸入		(19)	2.4	(6)	1.0	(1)	1.0	(-)	-
経管栄養		(68)	3.4	(1)	1.0	(8)	2.8	(2)	1.0
	内数								
	鼻腔経管栄養	(14)	2.4	(-)	-	(1)	2.0	-	-
	瘻孔経管栄養	(59)	2.6	(1)	1.0	(6)	2.2	(2)	1.0
	中心静脈栄養	(12)	1.4	(-)	-	(1)	4.0	(-)	-
モニター測定(心拍、血圧、酸素、飽和度)		(10)	32.5	(4)	14.0	(2)	20.0	(1)	4.0
酸素療法		(68)	2.4	(14)	1.1	(13)	1.7	(6)	1.8
気管切開		(8)	1.8	(-)	-	(-)	-	(-)	-
人工呼吸器		(2)	4.5	(-)	-	(-)	-	(1)	1.0
ストーマ(人工肛門)		(39)	1.3	(7)	1.0	(3)	1.0	(2)	2.0
留置尿道カテーテル(膀胱カテーテルを含む)		(74)	2.7	(26)	1.2	(20)	1.8	(3)	1.7
点滴		(16)	1.8	(2)	1.0	(2)	2.0	(-)	-
	内数								
	中心静脈点滴	(7)	1.6	(-)	-	(-)	-	(-)	-
	末梢静脈点滴	(12)	1.4	(2)	1.0	(2)	2.0	(-)	-
褥瘡処置		(44)	2.4	(18)	1.3	(9)	1.8	(1)	1.0
	内数								
	褥瘡処置(Ⅲ度以上)	(17)	2.0	(2)	1.0	(2)	1.5	(-)	-
がん末期の疼痛管理		(21)	1.4	(2)	1.0	(6)	1.3	(2)	1.0
腎透析(血液透析及び腹膜透析)		(26)	1.5	(2)	1.0	(4)	4.5	(1)	1.0
自己注射(インスリンを含む)		(58)	1.8	(6)	1.3	(16)	1.3	(3)	2.0
その他の投薬管理(服薬介助を含む)		(76)	48.3	(96)	15.2	(32)	21.5	(7)	13.6
重複計上しない実際の人数		(98)	38.3	(108)	12.9	(42)	19.3	(9)	11.2

② 特別養護老人ホームにおける医療処置必要者受け入れについて

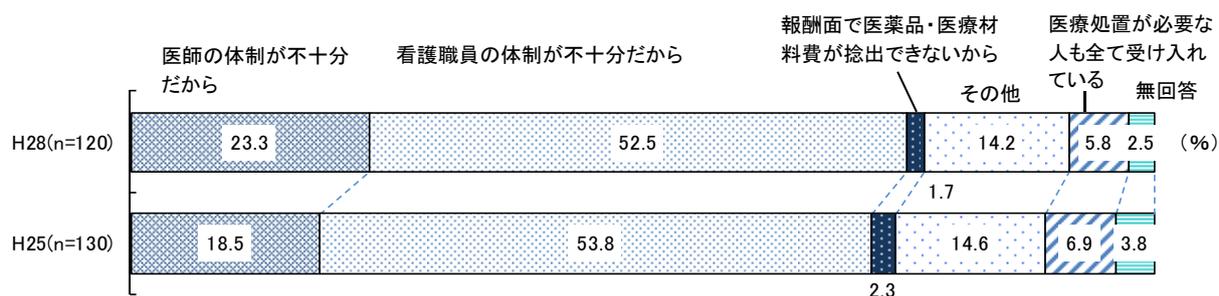
今後特別養護老人ホームにおいて医療処置が必要な方を受け入れるために必要なことについては、「特別養護老人ホームで受け入れ可能な医療行為の内容について明確にする」との回答が58.2%と最も多く、次いで「介護職員でも一部の医療行為を行えるようにする」(51.8%)、「報酬面で個別に医薬品・医療材料費の加算を可能にする」(44.5%)、「看護職員の配置基準を上げる(現行の入所者100人に対して3人を5人にする、等)」(42.7%)の順となっている。

図表6(3)②-1 医療処置・今後受け入れるために必要なこと(複数回答、特養・問15-1)

(%)	TOTAL (n=110)
医師の配置基準の見直し(常勤医師の配置等)	22.7
看護職員の配置基準を上げる(現行の入所者100人に対して3人を5人にする、等)	42.7
報酬面で個別に医薬品・医療材料費の加算を可能にする	44.5
特別養護老人ホームで受け入れ可能な医療行為の内容について明確にする	58.2
医療処置を必要とする人の受け入れ人数について基準を作る	17.3
介護職員でも一部の医療行為を行えるようにする	51.8
その他	10.0
無回答	1.8

特別養護老人ホームにおいて、医療処置が必要な人の入所が受け入れられない理由については、「看護職員の体制が不十分だから」が52.5%で最も多く、次いで「医師の体制が不十分だから」が23.3%となっている。前回(平成25年)と比較すると、「医師の体制が不十分だから」が約5ポイント増えている(前回18.5%)。

図表6(3)②-2 医療処置・受け入れられない主な理由(時系列、特養・問15)



③ 介護老人保健施設における医療処置必要者受け入れについて

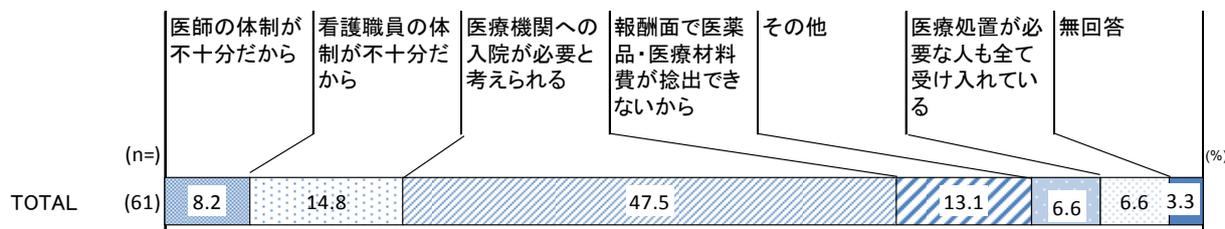
今後介護老人保健施設において医療処置必要者の受け入れに必要なことについては、90.9%とほとんどの施設が「報酬面で個別に医薬品・医療材料費の加算を可能にする」をあげているほか、「介護老人保健施設での受け入れ可能な医療行為の内容について明確にする」が54.5%となっている。

図表 6 (3)③-1 医療処置・今後受け入れるために必要なこと（複数回答、老健・問 16-1）

(%)	TOTAL (n=55)
医師の配置基準の見直し	16.4
看護職員の配置基準を上げる	30.9
報酬面で個別に医薬品・医療材料費の加算を可能にする	90.9
介護老人保健施設での受け入れ可能な医療行為の内容について明確にする	54.5
医療処置を必要とする人の受け入れ人数について基準を作る	18.2
介護職員でも一部の医療行為を行えるようにする	23.6
その他	16.4

介護老人保健施設における医療処置必要者受け入れが困難な理由については、「医療機関への入院が必要と考えられる」が47.5%で約半数となっている。次いで「看護職員の体制が不十分だから」(14.8%)、「報酬面で医薬品・医療材料費が捻出できないから」(13.1%)の順となっている。

図表 6 (3)③-2 医療処置・受け入れられない主な理由（老健・問 16）



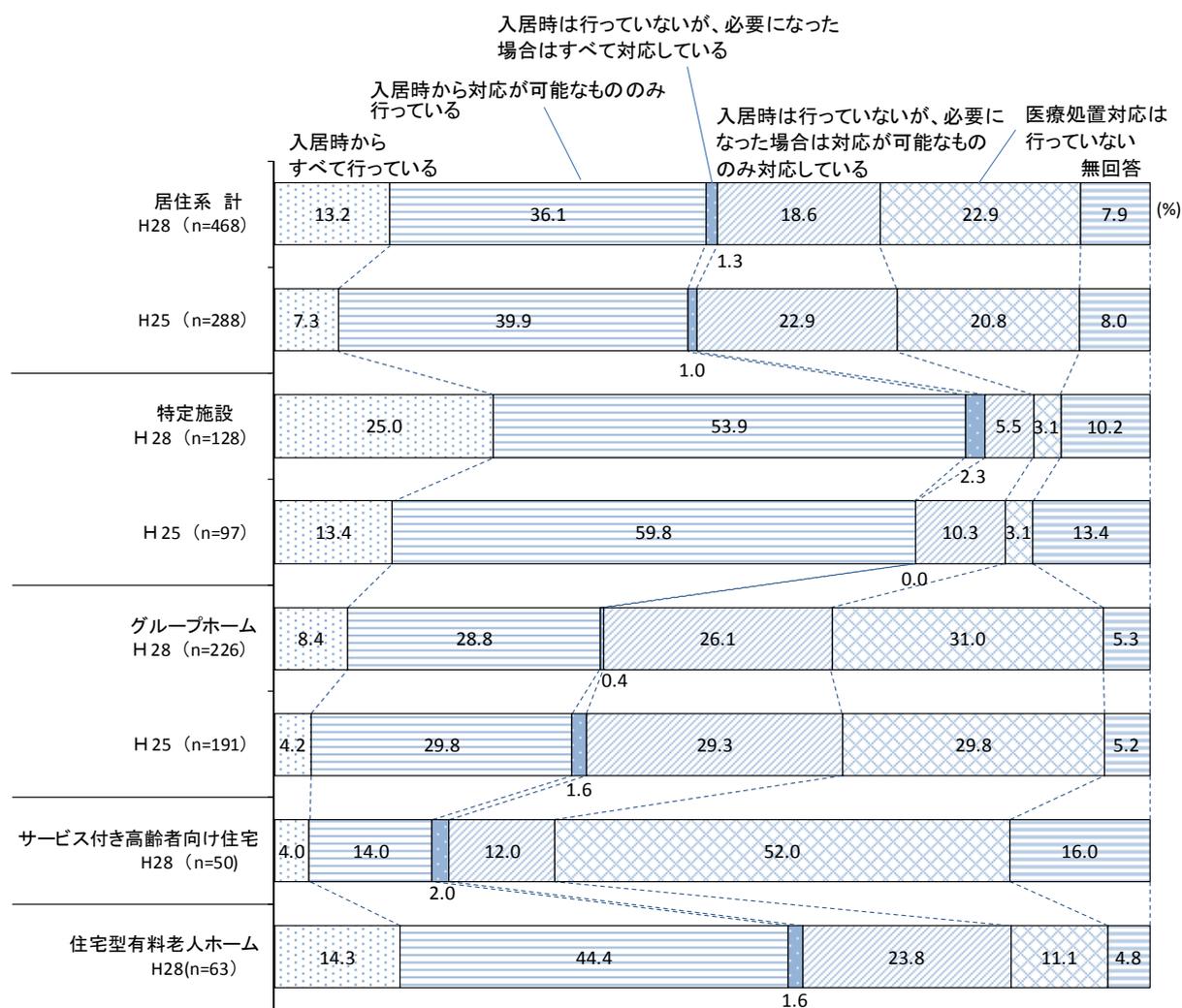
④ 居住系事業所における医療処置必要者受け入れについて

居住系介護サービス事業所（特定施設、グループホーム、サービス付き高齢者向け住宅、住宅型有料老人ホーム）について、医療処置対応の状況は、居住系介護サービス事業所全体では「入居時から対応が可能なもののみ行っている」が36.1%で最も多く、次いで「入居時は行っていないが、必要になった場合は対応が可能なもののみ対応している」(18.6%)、「入居時からすべて行っている」(13.2%)の順となっている。

事業種別では、「入居時からすべて行っている」、「入居時から対応が可能なもののみ行っている」の割合が大きく異なっており、「入居時からすべて行っている」、「入居時から対応が可能なもののみ行っている」と合わせて特定施設では78.9%、住宅型有料老人ホームでは58.7%であるのに対し、グループホームでは37.2%、サービス付き高齢者向け住宅では18.0%にとどまる。

前回と比較すると、「入居時からすべて行っている」は特定施設では25.0%（前回13.4%）、グループホームでは8.4%（前回4.2%）とともに増加している。

図表6(3)④-1 入居者への医療処置対応の状況（時系列、居住系・問12-1）



(その他 H28 n=1 は非表示)

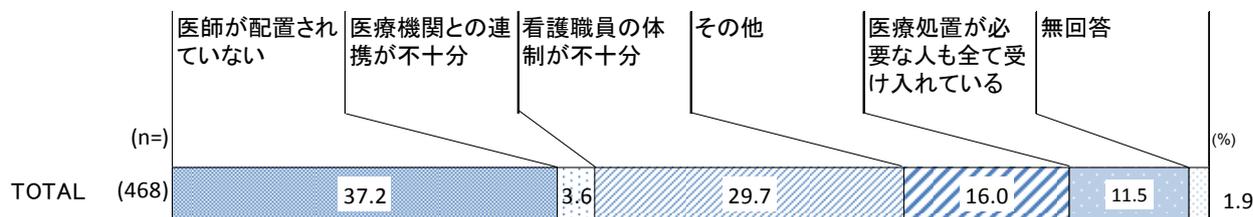
今後居住系事業所において医療処置必要者の受け入れに必要なことについては、「介護職に一部の医療行為を認める」(44.4%)、「協力医療機関との連携を強める」(44.0%)、「看護職員の配置基準を見直す」(40.5%)となっている。

図表 6 (3)④-2 医療処置・今後受け入れるために必要なこと  
(複数回答、居住系・問 13-1)

(%)	TOTAL (n=405)
看護職員の配置基準を見直す	40.5
医療処置を必要とする人の受け入れ基準を作る	29.9
協力医療機関との連携を強める	44.0
介護職に一部の医療行為を認める	44.4
その他	6.2
無回答	4.0

居住系事業所における医療処置必要者受け入れが困難な理由については、「医師が配置されていない」(37.2%)、「看護職員の体制が不十分だから」(29.7%)の順となっている。

図表 6 (3)④-3 医療処置・受け入れられない主な理由 (居住系・問 13)



居住系事業所における通院時の対応については、「原則は家族対応」(65.4%)、「協力医療機関を活用している」(53.6%)、「原則はスタッフ対応」(44.0%)の順となっている。

図表 6 (3)④-4 医療処置・通院時対応 (複数回答、居住系・問 14)

(%)	TOTAL (n=468)
原則は家族対応	65.4
原則はスタッフ対応	44.0
協力医療機関を活用している	53.6
その他	14.5
無回答	0.6

居住系事業所における医療機関との連携については、92.9%とほとんどの事業所が「往診をしてくれる医師・医療機関がある」をあげているほか、「入居者の健康管理や処置について助言を受けている」(73.3%)、「認知症の周辺症状について助言を受けている」(46.8%)となっている。

図表 6 (3)④-5 医療処置・医療機関との連携（複数回答、居住系・問 15）

	TOTAL (n=468)
(%)	
入居者の健康管理や処置について助言を受けている	73.3
往診をしてくれる医師・医療機関がある	92.9
急変時の受け入れを依頼できる病院を確保している	31.6
提携病院があり、一般的な入院を受け入れてもらっている	38.0
認知症の周辺症状について助言を受けている	46.8
その他	4.1
連携していない	1.3
無回答	0.6

居住系事業所において医療機関と連携する診療科目については、96.7%とほとんどの事業所が「内科」となっているほか、「歯科」(50.8%)、「皮膚科」(39.0%)の順となっている。

図表 6 (3)④-6 医療処置・連携診療科目（複数回答、居住系・問15-1）

	TOTAL (n=459)
(%)	
内科	96.7
歯科	50.8
皮膚科	39.0
精神科	38.3
整形外科	35.1
循環器科	25.5
外科	23.7
消化器科・胃腸科	23.3
神経内科	19.8
眼科	19.8
泌尿器科	19.2
呼吸器科	15.9
脳神経外科	15.0
リハビリテーション科	9.8
耳鼻咽喉科	9.4
婦人科	8.1
形成外科	7.4
麻酔科	7.4
心療内科	7.4
放射線科	7.2
神経科	5.9
呼吸器外科	5.0
肛門科	4.8
心臓血管外科	4.4
アレルギー科	3.5
リウマチ科	3.3
気管食道科	0.4
その他	2.2
無回答	1.5

(4) サービスの質の向上

① 事業所における取組

居住系事業所における利用者、家族の要望を積極的に取り入れるために行なっている取組は、「利用者・家族を対象に相談・苦情窓口を設けている」が90.2%と最も多く、次いで「家族にサービス計画を説明し要望を聞く機会を設けている」(83.1%)、「利用者の生活状況を記録し家族に連絡している」(81.4%)となっている。

特定施設及びグループホームでは、一般的に取組実施の割合が高い。

図表6(4)①-1 利用者、家族の要望への取組(複数回答、居住系・問26)

【施設種類別】

	TOTAL (n=468)	施設種類別(その他n=1非表示)			
		特定施設 (n=128)	グループホーム (n=226)	サービス付き 高齢者向け 住宅 (n=50)	住宅型有料老 人ホーム (n=63)
利用者にサービス計画を説明し要望を聞く機会を設けている	70.5	88.3	68.6	40.0	65.1
家族にサービス計画を説明し要望を聞く機会を設けている	83.1	93.8	91.2	38.0	68.3
利用者・家族と話し合いの機会を定期的に設けている	53.0	66.4	48.2	38.0	55.6
利用者の生活状況を記録し家族に連絡している	81.4	85.9	89.4	50.0	69.8
利用者・家族を対象に相談・苦情窓口を設けている	90.2	93.8	92.0	76.0	87.3
家族会を設置している	36.8	25.0	55.3	2.0	22.2
その他	8.8	7.8	7.5	8.0	15.9
無回答	1.1	0.8	0.0	2.0	4.8

また、居住系事業所におけるサービスの質の向上に向けた取組は、「事故防止のためにヒヤリハット事例の収集・共有を図っている」が89.1%と最も多く、次いで「管理者が直接サービス提供の状況を確認し指導している」(83.1%)、「運営推進会議を定期的に行っている」(71.6%)となっている。

グループホームにおいて、一般的に取組実施の割合が高い。

図表6(4)①-2 サービスの質の向上に向けた取組(複数回答、居住系・問27)

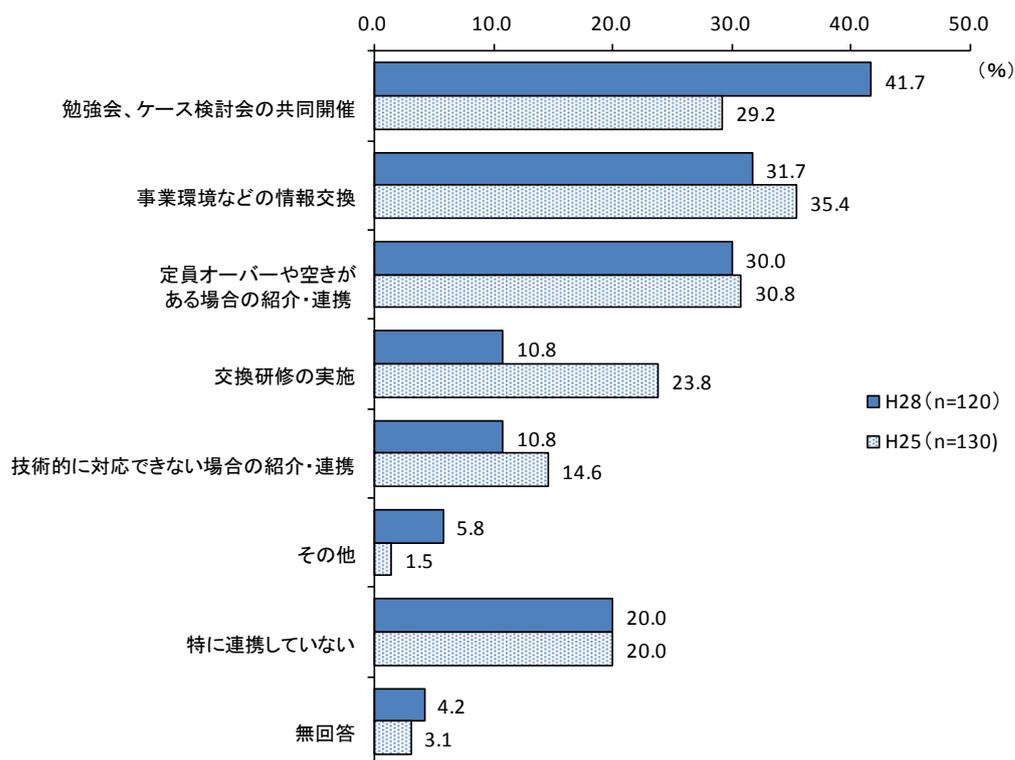
【施設種類別】

	TOTAL (n=468)	施設種類別(その他n=1非表示)			
		特定施設 (n=128)	グループホーム (n=226)	サービス付き 高齢者向け住 宅 (n=50)	住宅型有料老 人ホーム (n=63)
管理者が直接サービス提供の状況を確認し指導している	83.1	82.8	87.6	68.0	79.4
サービス提供のガイドライン、マニュアルを作成している	63.9	77.3	61.1	54.0	55.6
支援困難事例に関するケース検討会を行っている	51.3	57.0	54.4	28.0	47.6
事故防止のためにヒヤリハット事例の収集・共有を図っている	89.1	94.5	94.2	58.0	85.7
利用者や家族に対し満足度調査を行っている	40.4	57.8	41.2	10.0	27.0
運営推進会議を定期的に行っている	71.6	54.7	99.6	10.0	55.6
外部評価を受けている(介護サービス情報の公開を除く、ISO、第三者評価など)	54.7	20.3	96.5	6.0	14.3
ユニットケアを実施している	39.7	20.3	70.4	0.0	1.6
ボランティア団体や保育園・幼稚園、小学校など地域との交流を行っている	62.6	68.8	73.0	30.0	39.7
利用者が地域活動に向くなど、地域の一員として暮らせるような工夫をしている	47.0	26.6	73.0	30.0	9.5
その他	5.8	3.9	7.1	8.0	3.2
特に行っていない	1.5	0.0	0.0	10.0	3.2
無回答	1.1	0.8	0.0	4.0	3.2

## ② 介護事業所との連携状況

特別養護老人ホームにおける介護事業所との連携状況については、「勉強会、ケース検討会の共同開催」が41.7%で最も多く、次いで「事業環境などの情報交換」(31.7%)、「定員オーバーや空きがある場合の紹介・連携」(30.0%)がともに3割となっている。前回と比較すると、増えた項目では、「勉強会、ケース検討会の共同開催」が前回(29.2%)より10ポイント以上増えている。

図表6(4)② 介護事業者との連携（複数回答、時系列、特養・問43）



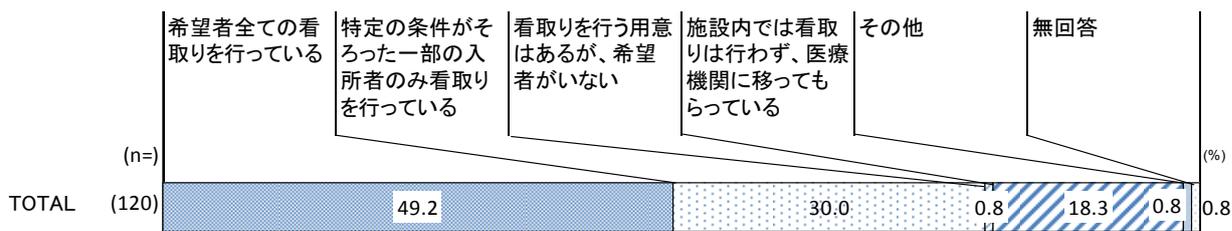
### ③ 看取りについて

特養における看取りの実施については、「希望者全ての看取りを行っている」が49.2%と最も多く、次いで「特定の条件がそろった一部の入居者のみ看取りを行っている」(30.0%)となっている。

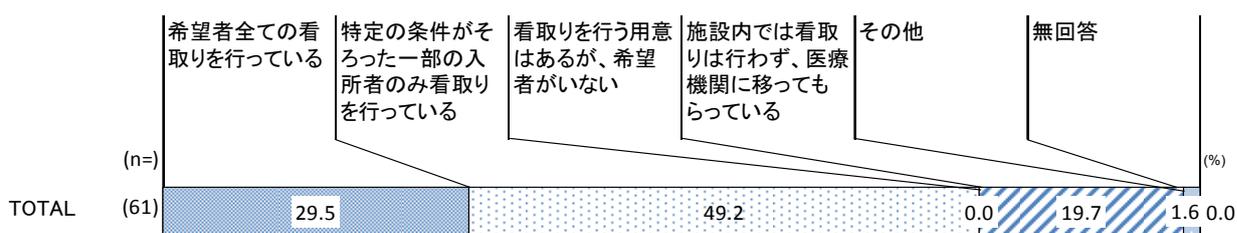
老健では、「特定の条件がそろった一部の入居者のみ看取りを行っている」が49.2%と最も多く、次いで「希望者全ての看取りを行っている」(29.5%)となっている。

図表6(4)③-1 看取り実施状況

(特養・問27)



(老健・問24)



居住系事業所全体では「希望者全ての看取りを行っている」が42.1%で最も多く、次いで「特定の条件がそろった一部の入居者のみ看取りを行っている」が37.0%と、回答事業所の79.1%が看取りを行っている。

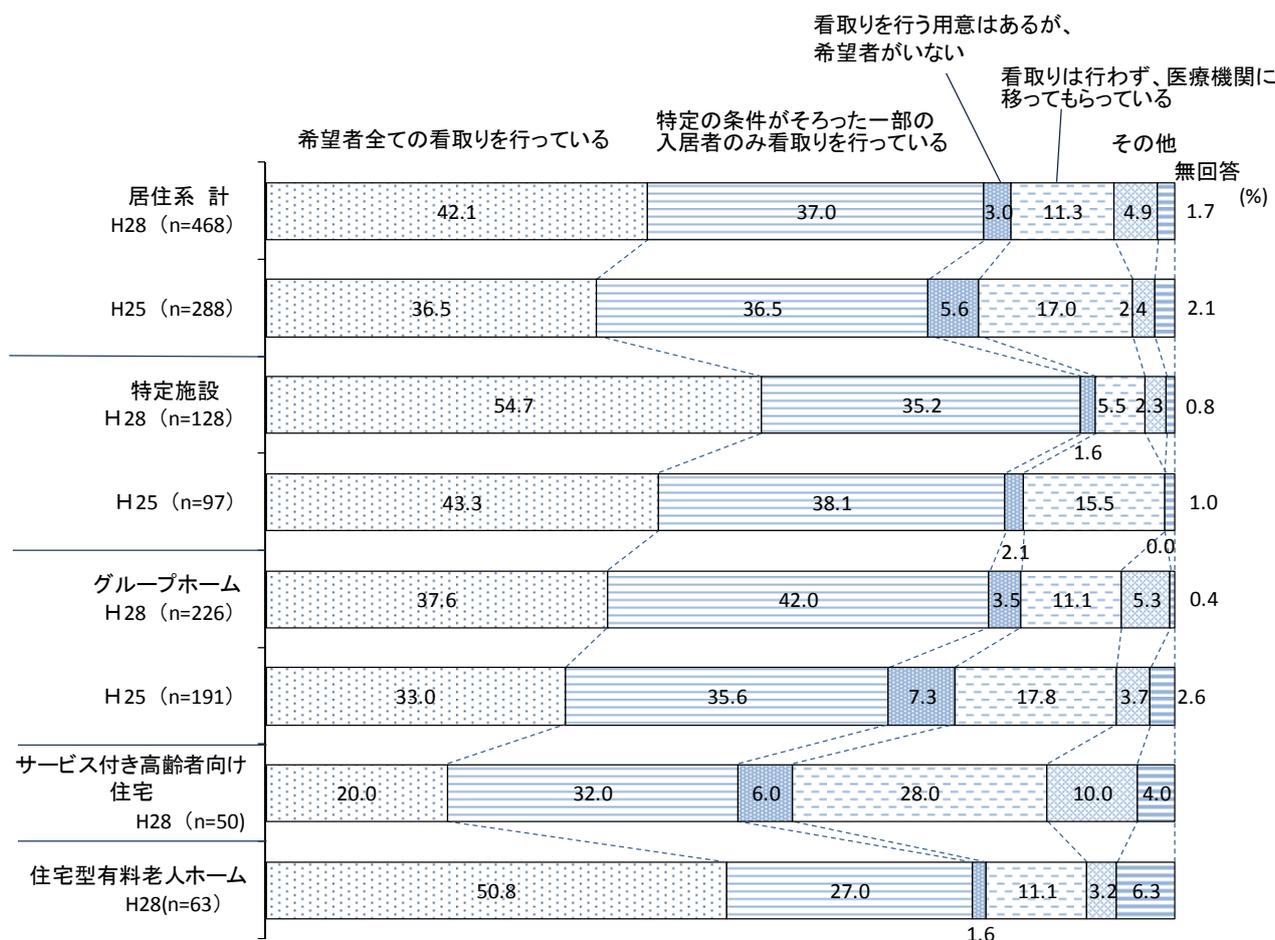
事業種別では、特定施設において「希望者全ての看取りを行っている」が54.7%、住宅型有料老人ホームでも同様の回答が50.8%であるのに対し、グループホームでは37.6%、サービス付き高齢者向け住宅では20.0%となっている。

特定施設、グループホームについて、前回（平成25年）と比較すると、「希望者全ての看取りを行っている」がいずれも増加し、特定施設では54.7%と半数を超えているほか（前回43.3%）、グループホームでは37.6%（前回33.0%）となっている。

一方、「看取りは行わず、医療機関に移ってもらっている」は特定施設では5.5%（前回15.5%）、グループホームでは11.1%（前回17.8%）とともに減少している。

図表6(4)③-2 看取り実施状況（時系列、居住系・問25）

【施設種別別】



(その他 H28 n=1 は非表示)

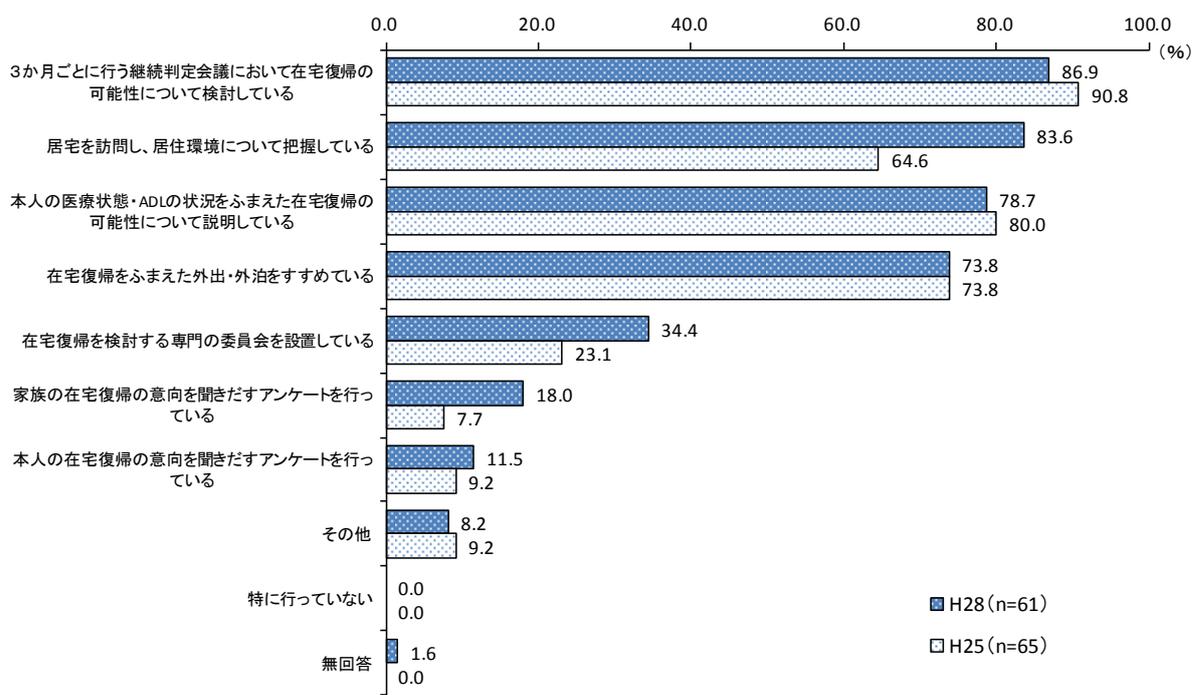
## (5) その他

## ① 在宅復帰・在宅支援促進の取組

介護老人保健施設において在宅復帰・在宅支援を促進するために行っている取組については、「3か月ごとに行う継続判定会議において在宅復帰の可能性について検討している」が86.9%で最も多く、次いで「居宅を訪問し、居住環境について把握している」が83.6%、「本人の医療状態・ADLの状況をふまえた在宅復帰の可能性について説明している」が78.7%、「在宅復帰をふまえた外出・外泊をすすめている」が73.8%の順となっている。

前回と比較すると、「居宅を訪問し、居住環境について把握している」(83.6%)は前回(64.6%)に比べて約20ポイント上回っている。また、「在宅復帰を検討する専門の委員会を設置している」(34.4%)は前回(23.1%)に比べて11ポイント上回っている。同様に「家族の在宅復帰の意向を聞きだすアンケートを行っている」(18.0%)は前回(7.7%)に比べて10ポイント上回っている。

図表6 (5)①-1 在宅復帰・在宅支援促進の取組（複数回答、時系列、老健・問19-5）



介護老人保健施設において入所者の在宅復帰を妨げる要因としては、「居宅で介護ができる環境がない（住宅環境、家族のマンパワー）」、「一人暮らしで介護者がいない」がともに 85.2%で最も多く、次いで「家族が本人を在宅に戻したくないという意向をもっている」（83.6%）の順となっている。

図表 6 (5)①-2 在宅復帰・入所者の在宅復帰を妨げる要因（複数回答、老健・問 19-6）

	TOTAL (n=61)
(%)	
居宅で介護ができる環境がない(住宅環境、家族のマンパワー)	85.2
一人暮らしで介護者がいない	85.2
家族が本人を在宅に戻したくないという意向をもっている	83.6
本人が在宅に戻りたくないという意向をもっている	26.2
人員が不足しており体制的に十分な本人や家族へのアプローチができない	6.6
その他	8.2
無回答	4.9

② サービス付き高齢者向け住宅

サービス付き高齢者向け住宅の事業者は、「入居者が体調不良の場合、経過観察を行う」(80.0%)や「1日1回のみ入居者の安否を確認する」(62.0%)等して、状況把握サービスの提供を行っている。

図表 6 (5)②-1 状況把握サービス提供について（複数回答、居住系：サ高住・問 16）

	TOTAL (n=50)	(%)
1日1回のみ入居者の安否を確認する	62.0	
日中、定期的(1日2回以上)に巡回して、入居者の安否を確認する	38.0	
夜間、定期的(1日2回以上)に巡回して、入居者の安否を確認する	34.0	
入居者が体調不良の場合、経過観察を行う	80.0	
その他	12.0	
無回答	0.0	

また、入居者体調変化への対応では、「日中、夜間ともに、救急対応（救急車の手配等）をする」が最も多く、88.0%となっている。

図表 6 (5)②-2 入居者体調変化への対応（複数回答、居住系：サ高住・問 17）

	TOTAL (n=50)	(%)
日中は、救急対応(救急車の手配等)をする	30.0	
日中、夜間ともに、救急対応(救急車の手配等)をする	88.0	
日中は、医療機関に受診するための調整を行う	38.0	
日中、夜間ともに、医療機関に受診するための調整を行う	46.0	
日中は、医療機関に受診する際に必要に応じて付添い等する	24.0	
日中、夜間ともに、医療機関に受診する際に必要に応じて付添い等する	36.0	
対応していない	0.0	
無回答	0.0	

認知症入居者への配慮としては、「徘徊などに配慮し、建物の出入りに常に注意を払っている」が80.0%で最も多く、「異食・誤飲に配慮し、薬品や危険物などの管理を徹底している」が28.0%となっている。

図表 6 (5)②-3 認知症入居者への配慮（複数回答、居住系：サ高住・問 18）

	TOTAL (n=50)	
(%)		
徘徊などに配慮し、建物の出入りに常に注意を払っている		80.0
異食・誤飲に配慮し、薬品や危険物などの管理を徹底している		28.0
その他		24.0
特別な配慮をしていない		6.0
無回答		2.0